

くらしと教育をつなぐ

女と男の家庭科新時代

We

7

2003



特集

# 元気になる性教育

【高校での性教育】

性教育を通して伝えたい「自尊感情」 竹内未希代さん

【ワークショップ体験記】セクシュアルヘルスとは？ 岡村 聡子

【インタビュー】エイズ、生、死 小貫 大輔さん

■連載 スローワークの経済学 竹信三恵子

# 不登校新聞

<http://www.futoko.org>

Phone 03-5360-1231

月2回発行ブランケット版6P

理屈じゃないんだよね



見本紙、無料送付します

全国不登校新聞社

特集

# 元気になる性教育

【高校での性教育】(講演記録) 竹内未希代さん 2

性教育を通して伝えたい「自尊感情」  
——「安心」して「自信」を持って「自分らしく」生きるために

【ワークショップ体験記】岡村聡子 16

セクシュアルヘルスとは?——自己決定力を育てるということ

◎ほんとうに必要な情報とは 稲邑 恭子 21

【インタビュー】小貫大輔さん 22

エイズ、生、死

◎ゲイコミュニティとエイズを考える 永易 至文 33

## ■女と男の家庭科新時代

新・オホーツクの潮風荒く 江口凡太郎 35

カトーさんの授業スケッチ (4)  
“20年後の自分を描く”の巻 加藤 昭仁 36

食の歳時記 第41回 野外料理 坂本 薫 38

## ■連載

女が歳をとるとということ 第71回 新老人 木村 栄 40

わがまま映評 第41回 「少女の髪どめ」 満田 康子 42

英語で女性問題を語るための  
ワンポイント・レッスン【番外編4】 吉原 令子 44

乱読大魔王日記 第41回 冠野 文 46

過去を振り返らない/先を考えない 第33回  
マネすることって素敵なことなのに 松本 一郎 48

日本一のNPOを目指して 第4回 新川てるえ 50

妻が変われば夫も変わる 第2回 三浦 純子 52

こだわらない、にこだわって 第4回 二見れい子 54

スローワークの経済学 第4回  
ファストな人にスローを伝える 竹信三恵子 56

●読者のひろば 61

●編集後記 64

■特集 元気になる性教育

「高校での性教育（講演記録）」

## 性教育を通して伝えたい

### 「自尊感情」

「安心」して

「自信」を持って

「自分らしく」生きるために

### 竹内未希代さん

（たけうち・みきよ）

一九四九年長野県生まれ。現在、東海大学第三高等学校（茅野市）講師（性教育）担当、諏訪日赤看護専門学校講師（セクシュアリティ）担当。

現場で性教育に携わるほか、各地で講演活動や、CAPのワークショップなどを行う。

「CAPしなの」共同代表、人々間と性々教育研究協議会・会員、日本家族計画協会・思春期相談員。

（まとめ・中村泰子）

竹内さんとは、昨年の自己防衛プログラムWEN-DOで一週間のプログラムをこ一緒した。長年積み重ねてきた性教育のこと、CAP（子どもへの暴力防止プログラム）の活動、多様な年齢層を対象とした地域での性教育、「自立」や「自己決定」のことなど、話は尽きず、あたたかな人柄と存在感に、すっかり竹内さんのファンとなつてしまった。

元々は音楽教師だったが、一三年間、生徒指導を担当し、問題行動は「個人的問題」ではなく、思春期には発達援助が必要だと実感して、雨の日、雪の日の体育の時間にゲリラ的に性教育の授業を行ったのが、始まりだと言う。その後、保健体育で一二年間、家庭科で九年間、性教育に取り組んだ（小誌九三年一月号に掲載の授業実践を参照）。

その後、「やりたいことがたくさんありすぎて」、時間をつくるためにいったん学校（東海大三校）を辞め、現在は講師として、週一時間（年間三〇時間）、男女共修の「性教育」講座を持っている。九五年から始まつた講座は、性の二つの分野（SEXとジェンダー）を、歴史、社会情勢、文学、コミック、TV番組、ヒットソング、絵本などを題材に、自尊感情や人間関係、セクシュアリティを学ぶ人権学習をめざしたものだとい

う。女子のみの家庭科のときは、女の子が元気になるようにという思いが強かったが、今では、男子の考え方、感じ方も大切にしながら、生徒たちの思いに寄り添える教師でありたいと言う。

中・高校生への性教育について再度寄稿をお願いしたところ、昨年六月に行われた長野県豊科高校での講演をまとめる形で掲載をご了承いただいた。(中村)

## ●はじめに

～自分バージョンに翻訳して聞いてね～

昨年、この学校に来て、あー、高校生ってこういう感じだなーって、なんだかすぐ楽しかったの。それと、私はいろいろな学校に行って話しますが、この学校は、同性愛の話をして、唯一笑わなかった学校でした。ある学校では、話の途中で「山田、お前そうだろ！ 竹内、お前こそ！」なんて、変に盛り上がったりするんですが、そういうことがなかった学校としても、去年一番記憶に残っていて、それで今年も楽しみにして来ました。

今日は、その続きを話します。私たちの性的指向、「指が向く」と書きますが、誰にエロスを感じるか、

誰にドキドキするか。相手が同性なら同性愛、異性なら異性愛といえます。そして、好きになった人に、たまたまベニスがあったりおっぱいがあったりしても、それは単なる付属物の問題であって、その人が好き、というのはバイセクシュアル、両性愛といえます。統計のどのくらいかというところ、正確な統計というのはないのですが、五二%の人が生涯の間に両方の性の人を好きになるというアメリカの統計もあります。

みんな、ついこの間までは、生殖能力を持たない、ただのヒトだったの。それが小学校の高学年あたりから、脳が発達して、自我が出てきて、それで性も発達してきた。そう考えると、高校生のみんなは、六、七、八年目ぐらいで、五三歳の私から見れば、まだ見習い中なわけです(笑)。話はそれるけど、うちの学校(東海大三高)の生徒でね、「三〇になったら、もう死んじやいたい」って言う子がいるの。「おばさんにはおばさんの、楽しい人生があるんだよ」って言うのと、「ウツソー！」って言ってました。

それから、同性愛の人は約一割と言われていますが、同性が好きだという人に、それは異常だとか、病気だとか、いざれ治るよとか、早く治しなさい、と言っても戸惑ってしまうだけです。今日は時間が限られてい

るので、異性愛に限って話をさせてもらいますが、今、同性が好きだという人は、翻訳して自分バージョンに直して聞いてくださいね。そのことをまずお断りしておきます。

タイトルが「性教育講話」となってますから、「勘弁してよ、知ってるって、コンドームつけりゃいいんだろ」と思った人はいないかな。私は東海大三高で性教育を教えています。一年生の時に週一時間の性教育の授業が時間割の中に入っています。年間で三〇時間、「そんなに何やるんだろう」って思うかもしれませんが、いろいろなことをやるので、それでも時間が足りません。

最初はね、生徒たちはホントに「勘弁してよ」って感じで、男子と女子が並んで週一回、性教育の話は恥ずかしいと。あるいはエッチな話をしてくれるんじゃないかと変な期待をする子がいたりね(笑)。でも、次第に「性教育というのは科学なんだ」ってわかって落ち着いてくる。だって、体のことは基本的に生理学、遺伝のことは生物学、恋愛って文学のテーマだから人文科学でしょ、性差別となると社会科学。それで最後には、「性って大事じゃん」とか「恥ずかしかったけど、多少耐えて聞いていたら身になった」とか「自分

ってこんなに大事なんだ」って感想を聞かせてくれます。今日は一〇〇分という短い時間ですが、何か一つ、皆さんのプラスになればいいかなと思っています。

### ●性の自己決定には//実力//がいる

今日は、性の自己決定の話をします。自己決定という、いろいろなイメージがあると思います。これまでに、例えば高校進学するときなどは、中学の先生や先輩、親や親戚まで、一緒に考えてくれましたよね。けれど、性の自己決定というのは、一人で、それも瞬時にしなければいけないわけ。

ある男子生徒がね、学校からの帰り、彼女と手をつないで歩いていて、ここだったらキスが出来るか、今日は歯も磨いてきたし、ここだったら見えにくいし、でも突然だと彼女がびっくりして嫌われないか、でも彼女は早くしてって思ってるかもしれないし……ってずっと考えてて、でもやっぱりできなくてね。そんな状況で、男子がガバって来たら、女子はどうする？「ちょっと待って」と言うか、黙って目を閉じてキスするか、「えっ」ってびっくりして身を引いちゃうかもしれないよね。

つまり、性の自己決定は、○・○何秒で決定すること。これが特徴。だから実力があるんだ。

性教育の授業や保健室の資料で勉強していることは、よく考えれば思い出せることだけど、瞬時で決定する力というのは、みんなの本当の実力なの。丸暗記してできることではない。自分が何が好きで何が嫌いか、何が快で何が不快か、そういうことを含めて、自分のことがよくわかって、よく考えておかないと決められないよね。だから今日は、みんなの実力づくりのお手伝いをちょっとできればと思っています。

### ●行動は自分で選ぶことができる

では、自己決定って、どこでしていると思いますか？ 脳なんですよね。今はうんと話を単純にするから、詳しいことはあとで自分で調べたり、先生に聞いてくださいね。脳には脳幹というのがあって、それが心臓や肺を動かしているの。脳幹の上のところに、食欲、睡眠、性欲をつかさどる脳（大脳辺縁系）があって、気持ちいいことが大好き。誤解を恐れなくて言うと、それは見たい、やりたい、食べたい、エッチ、スケベ系の脳で、人には全員共通してある脳なの。

ところが、同じ状況に置かれても、人によって行動が違うのはなぜだと思う？ それはね、進化の中で脳の表面（大脳新皮質）にいろいろな情報が書き込まれてきたからなんだよね。しわしわの皮には、みんなが小さいときから、親に育てられしつづけたこと、学校で習ってきたこと、テレビやいろいろなものから仕入れた今の知識や情報や技術もすべて、ここに入っていて、それは一人ひとり違う理性の脳なんだよね。みんなに共通の本能の脳（大脳辺縁系）と一人ひとり違う理性の脳（大脳新皮質）が情報をやりとりして、その結果、行動が決まるわけです。

何を選択し、どう行動をするかは、皆さんの脳に何が書き込まれているかで違う。そして、これから何を書き込んでいくかは、自分の責任だよ。だから、ゲームやビデオ、コミックいろいろあるけれど、むさぼらないで、選んでほしいの。男性向けの本、女性向けの本、それぞれにこうであればどんなにいいか、という都合の良いことだけが載っているの、実際に生身の人間を目の前になると、えっ、こんなはずじゃなかった、ということになりかねない。選ぶのは自分自身だから、自分で上手に情報を選んで、書き込んでください。

## ●わかっぺいめいじや、ひきかへいじや違ひ

「自分を大事にする気持ち」「自尊心」について

情報として知っていても、わかっぺいでも、実際にはできないことがあるんです。みなさんは、避妊について知ってますよね。では、コンドームで何%避妊が成功すると思いますか？ 八五〇%と言われています。だからコンドームさえつければ安心ということではなくて、一〇〇組のカップルが、一年間コンドームを使ってセックスを続けていたら、そのうちの五組十組が避妊に失敗した、というのが八五〇%という数字です。ですから完全な避妊なんてないのですが、その前に、避妊方法を知っていれば使えるか、という問題がある。

ある生徒が、「先生さー、最初から、女の子がカバンの中からコンドーム出したら、男の子はどう思うかなー」って心配してました。

こんな話もあります。「トイレでね、先輩が二人、手をとりあって、飛び上がってたんだよー。それはね、待っていてもちっともこなくて心配していた生理が来たもんで、友だちと二人で心配してたもんで、二人で飛び上がってたんだよー。マジでよかったって」。

高校生は避妊を知っているし、コンドームも知っているし、たとえベッドの下にコンドームを山ほど持っていたとしても、知ってることとできることは違う、自己決定の中味も違うってことなんです。

去年、一年生の性教育の授業の中で、みんなにヘアムースの缶を持って来てと言って、実際にコンドームを一つずつ配って、裏表を間違えないようにとか、缶にかぶせてみるのをやってみたの、一つ三〇円もしたから大変だったけど（笑）。

でも、知識と技術の両方があれば、実際に使えると思う？ 「コンドームを持っていると、すれた女だと思われらんじやないかと心配」って女子生徒が言うので、男子生徒に授業で聞いてみたの。実は意外と男子はこだわっていませんでした。「しつかりした子だなと思う」とか。性教育をほぼ一年やった二月のことでしたからね、「僕が自分でしつかり用意します」なんて答もありました。

でも、「コンドームをつけて」と言い出せる私、実際にできる私、それはどうなのでしょう。知っていることをできることにするというのは難しいの、大人でもね。ここで一番大切なことは、自分を信頼する気持ち、自分が好きという気持ちなんです。



みんなは、自分のことをう〜んと信頼してる？もう高校二年生になると、かなり自分の中で折り合いがついてきて、「どうせ、自分なんか……」という気持ちからかなり回復してきて、自分に欠けたところがいくつあっても、自分を信頼したり、そんな自分が好き、という気持ちがあると思うの。みんなの顔を見ると、中味は知らないけどね、そういうふうに見える。なんかね、伝わってくるのよ。

何年か前に援助交際が話題になったころ、生徒に聞いたことがあるの。「みんな、いくらなら売るのが？」って。授業じゃなくて、休み時間に立ち話でなんだけど。女子が六人ぐらいいて、「一〇万でもダメ、二〇万でもダメ」「ダメダメ、お金じゃ売れない」って話になって、これで結論かなと思つたら、一人の子が「私、五万でいいよ」って言つたんです。といつて、彼女に五万出せば売るのがかといつたら、売らないと思いますよ。だけど、この子は、自分の頭のとっぺんから足の先まで、性器もおっぱいも心も全部含めて、三〇分か一時間のことかもしれないけれど、「勝手に触つて、いじくつて、使用してくれて構いませんよ。それで五万円でもやってもいいと思います」と言つたということだと、私は思うの。

何が言いたいかというと、さつき「自分が好きですか？」って聞いたでしよ。自尊心、自分を大事だと思ふ気持ち、英語ではセルフエスティームといいます、これはもともと車の見積りとか査定という意味のようです。だから、自分をいくらに見積もるか。たまたまお金で見積もつただけど、「自分に値段がつけれない」と言つた子は、自分というまるごとの存在はお金でははかれないって言つたんだよね。

「I am OK」、私にとってOK、ということはいろいろな意味があるけれど、たとえ、勉強やスポーツができなくても、外見が多少まずくてね、歌が下手でも、ギャグが受けなくても、何の根拠もないけれど、自分が好き、自分を大事だと思えるか、ということですよ。

一方、「I am not OK」というのは、いろんなことができたとしても、何の根拠もなく「自分なんか……」って、自分が嫌いで、自分のことが認められないでいる気持ち。

さっきの、知っていることとできることの話に戻すと、たとえベッドの下にコンドームが山ほどあつて、すばやくコンドームをつける技術があつても、自分が大事だないってホントに思っていないと、その瞬間には使えないということなんです。

皆さんは自分が好きですか？ 自分を信頼していいですか？ そして自分とは山ほど違う、欠けた所もいっぱいある相手のことも、信頼できるでしょうか？ 自分が大事なのと同じように、相手のことも大事にする、これを「自立」と「共生」と呼びたいと思います。が、これが一番最上級の「精神的自立」だと思っています。ます。

## ●性器の話

では、みんなが自分を好きになりやすくなるように、性器の話をします。学校の先生が性器、とりわけ外性器の話をするのはかなり難しいので、今日だけ来て、すぐに帰ってしまふ、私が話しますね。

外性器も内性器も、なんのためにあるのか、性というのはなんのためにあるのか、ちよつと考えてみて下さい。

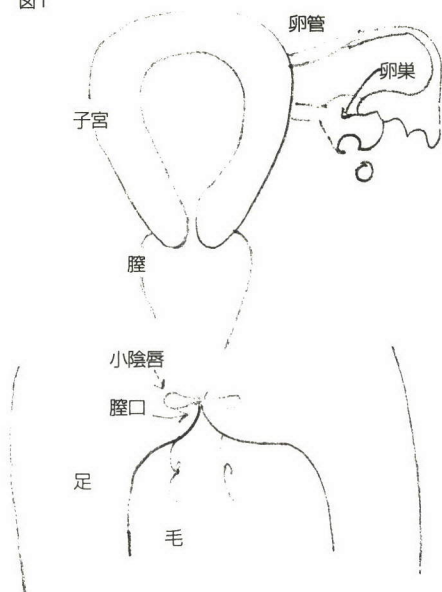
私たちは、自分でつくろうと思って、精子や卵子をつくらせているわけじゃないよね。男性は一秒に七〇〇の精子をつくらせているんだけど、女性はどのくらい卵子をつくらせていると思う？ 実は月に一個なの。

自分の遺伝子情報を半分ずつ持っている卵子和精子

が、月一個と一秒に七〇〇なんて、どうしてこんなに数が違うと思う？ それは子孫を残すために一番戦略的にいいってことなの。けれど、私は、人類のため、子孫を残すためにセックスをしたことなんて一度もないよ。自分がしたくてセックスしたら、結果として子どもができたの。だからセックスは子孫を残すためなんてのは、嘘。子孫を増やすだけなら、性なんかなくて、一つのモノが二つに分裂して、それがまた分裂して、つて増える無性生殖のほうが、数の面では絶対有利。でも、みんなが目にする生き物つて、ほとんどが有性生殖しているよね。異性に出会わなければ子孫を残せないような不利な状況で、なぜ、人はこんなに増えたのか？ 答は簡単で、私が分裂してコピーが出来たとしても、それだと環境の変化に弱くて、種として生き延びることができない。だから、性というのは、子孫を残すために進化してきたシステムだといえる。

私がセックスするときは気持ちでしているけれど、性というシステムは単に数を増やすためのもの。すると性器は、これは私が勝手に定義したんですが、「できるだけ、多く、確実に、子孫を残すために進化し続けてきた器官」。ですから、みなさんの足の間、骨盤内にあるものは進化の頂点にある形なんです。

図1



今日は外性器の話をしませんが、なぜペニスちくわ型じゃだめなの？ なぜ三角のものがついてるの？ おでんのちくわとこんにやくを食べながら考えたわけ(笑)。男性型の性器は、睾丸、精巣があって、性管があって、ペニスがあって、亀頭があって、毛がはえている。じゃあなぜ亀頭のところが膨らんでいると思う？ 精子を卵子に届けるのなら、膣の奥で真空状態で届けられればいいわけだから、ペニスは長くすればいいわけ。それを、入りやすいだけじゃなくて抜けにくくして、「できるだけ、多く、確実に、子孫を残すために進化し続けてきた」から、今の形になっている。

じゃあ、女性型の性器を考えてみよう。子宮があって、卵管があって、卵は卵巣にある。抜けにくくて入りやすい、ということ言えば、膣はね、普段はトイレットペーパーの芯をベチャツとつぶしたみたいにしてあるわけ。だからプールで平泳ぎしても絶対水は入らない。そして小陰唇があって、さらにカバーするための大陰唇があって、足があって、毛が生えている(図1)。つまり第一のカバー、第二のカバーがあるの。男の子が性的に興奮すると、ペニスが大きくなって堅くなるよね、それと同じで、小陰唇には海綿体が二個入っていて、女の子が性的に興奮すると膨らむの。小陰唇ってしわしわしているよね。自分で足の間を覗き込んで、何か出っぱったものが見えたら引っぱってみて、すごくよく伸びるから。しわしわしているのは、いずれも伸びるためのゆとりなの。男の子のペニスの大きな皮もしわしわしてて、日頃はゆとりがあるじゃない。それは膨らんだときにちょうどいいように出来ているの。それと同じで、小陰唇がしわしわしているのは、性的に興奮して、ぜひとも、ぜひともこの人のペニスを私の膣に入れたい、と思った気持ちのときに膨らむの。そういう時にセックスするもので、「やらせろよ」とかいつてやるものではないです。

よく身の上相談とかで、やろうと思っても痛くてできなかつたというのは、それは男の子が下手だったかからじゃなくて、女の子が本来したくないの。それなのに、ここでやらせてあげないと、他の女の所に行ったらいやだとか、あるいは、男の子は溜まるとかわいそうだからとか、そんなこと、全然心配する必要がないからね。だって、精子が溜まって睾丸が破裂したなんて話、聞いたことがないでしょ。つまり、新鮮な精子を残すために、期限の過ぎたものは、みんな捨てちゃうの。自然におしっこにまぜたり、分解してリンパ液に入ったりして、だから、かわいそうじゃないよ。

それから、子宮というのは体の中で一番強い筋肉を持っていきます。とっても丈夫な袋の中に、しかも新しい命を生み出すためにお水まで入れてカバーしているわけです。だから、バタツと倒れても、足が折れても、胎児は大丈夫なの。

●外性器〜男女の連続性〜

ここで手を使うのを見て下さい(図2)。これは外性器を足の間から見上げたところだと思つてね。

生物というのは、本家はメスで、有性生殖で分家し

たものがオスなの。今日は、半陰陽とかインターセックス、性同一性障害の話はしません。みなさん胎児の一〇カ月のうち、最初の二カ月間は全員メスなんです。そして、お腹の中で進化の四〇億年の歴史を辿るわけ。最初の八週間は無性生殖のところを辿っていて、胎児は女性型なの。成人型でみると、大陰唇があつて、毛もはえている。大陰唇にはメラニン色素がいつぱいついて、黒っぽくなってくる。なぜメラニン色素が沈着するかというと、セックスというのは性器と性器が激し

図2 手遊びしましょ!



く擦りあう行為で、唇や乳首や肛門のように刺激の多い場所には同じように色がついて保護しているの。みんなの生殖器が、茶色っぽいとか、黒っぽいとか、紫っぽいとかするのは、丈夫にするためのもの。それから、色が濃いと心配する人がいるけれど、色の濃い薄いは性交経験とは関係ないからね。これは医師の研究で明らかにされていることです。

でも粘膜はそんなに丈夫に出来ていないよね。じゃあ、構造上どんなふう工夫されているかというのと、(Aは足を閉じた状態で、Bは足を大きく開いた状態)大陰唇、小陰唇があつて、おしっこをする尿道口、クリトリス、膣口——セックスの時にペニスを入れる所、月経血の出る所、出産時に赤ん坊が出る所——それはここにあつて、それを小陰唇でカバーしています。

そして、最初の八週間を過ぎると、男の子の胎児には精巣が出来て、精巣から分泌された男性ホルモンが十分あると、小陰唇がくっついてペニスになる(Cは男性器への分化の途中をあらわしている)。男子はペニスの裏側に癒着した線があるのを知っているよね、気づいていない人は家に帰ってひっくり返して見てみて。

そしてクリトリスが大きくなって亀頭になる。クリ

トリスって気持ちのいいところだって、みんな学習しているでしょ、つまり神経細胞がたくさんあつて、いやな触り方をするときめちゃ痛いし、上手な触り方をするとすごく気持ちがいい。だってどんなに暑くても、みんな裸になってビチャーとくっついて子孫を残しているわけだ、セックスがしたくて。それは報酬≡快感があるから、ここに快感の元、クリトリスをくっつけてね。元が同じだから亀頭も敏感なわけ。話を戻すね、小陰唇がペニスになり、大陰唇は回り込んで陰のうになる(Dは男性器へ分化を完了した状態)。玉の袋に癒着した線(縫合線)があるでしょう。

だから、男と女ってすごく違うように思うけれど、細胞分裂するとき四六の染色体に分かれて、そのうちで違うのは一個だけ。子孫を残すための一組X・Yだけが違う。産まれた時に男女を判定する足の間の生殖器ですら、サイズは違うけれど、元は同じものなの。

授業でね、「何か聞きたいことある？」って聞いたら、「僕の生殖器は左に寄っています」って紙に書いた男の子がいたけど、小陰唇は左右対称じゃないから、大きいのと小さいのが癒着すると、どうなると思う？ そう、小さいほうに引っぱられるよね。女子もね、小陰唇は長さ、幅、高さ、色、すべて人によって違うの。今日

家に帰ったら、プライバシーのしつかり守れる明るい所で、自分で鏡で見てみて、健康で正常な状態を見ておいてください。口の中も、歯もそうだよ。しっかりと見れば虫歯もわかる。

それからね、「僕のペニス臭いです」って書いた子がいたの。女子も自分の性器の臭いをかいでみてね。汗腺のアポクリン腺、エクリン腺がここにある。ペニスから亀頭にかけてスライドするカバーが包皮なんだけど、包皮を剥いたところに油腺があって、この脂が気持ちよくなめらかにスライドさせるために役だっているというわけ。女の子は大陰唇の内側に汗腺や脂腺が集中していて、脂腺はいつも脂を出して粘膜をなめらかにしているの。その脂が白く固まって垢になるので、性器に白い垢がついていたら正常だと思つてね。垢は石鹸を泡立てて洗つてください。粘膜は刺激に弱いので、石鹸分はよく流しておくこと。

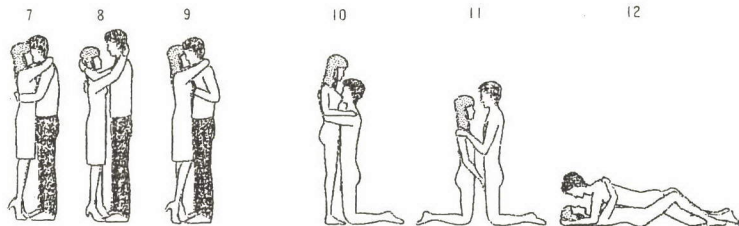
アポクリン腺、エクリン腺は異性を惹

きつけるため臭いも出しているの。日常生活モードでは、脇が臭うとシユツシユツとスプレーするけど、なぜかHモードのときは、すごく異性を引き寄せる臭いになる。そして毛は縮れているから臭いが溜まるというわけ。

これほど性器は子孫を残すために進化してきたわけで、避妊は容易なことではないことを伝えておくよ。

### ●セックスの話

じゃあ最後にセックスの話をお願いします。要はこれだけの事なんです。みなさんは、セックスのしかたを誰から教わった？ How to Sexの本じゃないよ、そんなのは要らない。二人の人が本当にもっと近づきたいと思つたら、いろんな失敗しながら二人で試行錯誤していく。男の子は「女の子をいかせなくちゃ」なんて神話に惑わされちゃダメ、ポルノの世界に騙されちゃダメ。本当の人間関係を作る



7.口から口、8.手から頭、9.手から身体、10.口から胸、11.手から性器、12.性器から性器

うとしたら、一から二人で話しあって、君はどうなってる？ 私は？ こんなふうにされたら気持ち悪い、あるいはこんなふうになされたら気持ちいい、そういうことをきちんと話し合っていけないと、いいコンビにはなれないよ。

かといって、みんなにセックスは勧めません。なぜかというと、セックスは大人のやることです。君たちは親よりも時間も体力もあるけれど、生活の自立ができていないのに、自分のパンツも洗わない者が（障害のある人は別だよ）、中味だけ自己決定していいとは、私は思いません。みんな、自分の自立のレベルと責任のとれる範囲をきちんと考えながら聞いてね。最初に言ったよね、自己責任。遊びややりたいことがまんでできない、自分中心にしか考えられないうちは、妊娠しない、させないこと。「うちの娘、産みたいと言っているんですけど」と言っただけ、家の玄関に彼女の親が来たら、潔く学校辞めて働く、それくらいの決意で

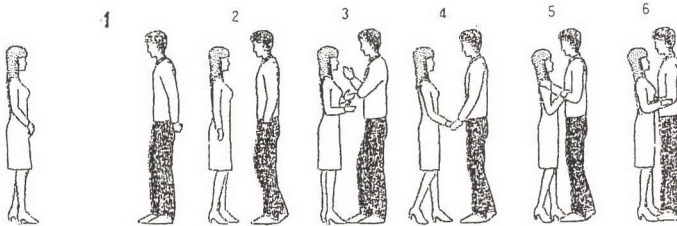
なきや。

安心できる境界線、テリトリーの話をします。素敵な人と出会いました。だんだん、「この人なら大丈夫」というふうな許せる場所を増やしていきます。ちょっと手を伸ばしてみてください。私の持っている縄張り（テリトリー）は、私の伸ばした腕の円周ぐるりなんです。みんなは、このテリトリーの中に入れて嬉しい人ってどのくらいいる？ ちよつと握手していいですか？（二人と握手しながら）今は「いいですか？」「いいですよ」と許可を求めて、私たちは体の一部を許しあったんです。でも、私もし急にキスを求めて抱きついたら、それは不適當ですよ。

私が言いたいことは、この人ならここまで大丈夫というのを常に確認しながら進める、ということ。

デズモンド・モリスという人の「ヒトの求愛十二段階」（図3／出典…『ニュ

図3



1.目から身体、2.目から目、3.声から声、4.手から手、5.腕から肩、6.腕から腰、

「セクソロジー・ノート」村瀬幸浩十月舎）を使って説明するね。

みんなが今まで付き合った人の中には、話すだけの人もいたし、手をつないだり、キスした人もいるよね。人は神経細胞の多いところは最後に持っていくの。例えば、背中合わせでギョコンバツタンできても、お腹をあわせてはしないよね。そんなふうに、自分の気持ちと相手の心の距離と体の距離は比例しているの。

みんな自分の持ち物に自信ある？ みんなが「俺のペニス、ナイス」「私、ナイスバディ」ってわけじゃない。どういう時だったら安心して脱げる？ 私は三段腹だけど、「うわあー三段腹！」って言われたら、傷つくよ。「うわあー包茎！」って言われたら、どこが傷つく？ ペニスが痛い？ 違うよ、心が傷つくよね。首を締められるような相手とは抱き合わないよね。つまり、私のプライベートのかたまりである体も心も全部、この人なら傷つけないって確信が持てる、そういう人の前でなら私たちは脱げる。それに、「あいつとやった」とか「あいつはこうだった」とか、そんなふうに言いふらされたら傷つくよね。そしてペニスを引っぱられたら痛いでしょ、クリトリスはもつと敏感だから、そんな心配のない人。妊娠の心配のない人。

トイレで飛び上がった喜んでいた女の子、それまでどれほど心配したか分かる？ ちゃんと避妊しないと、女の子は「もしかして、これで妊娠したらどうしよう」って心配で、セックスしても全然楽しくない。ですから、最終段階は避妊ができてかつSTD（性感染症）の心配がなくて——STDやエイズの話は保健の先生にお任せして——セックスっていうのは、本当に安心して安全なところでやることなんだ。しかも、同意の上で。性と心はとても近いの。

人は親からセックスのしかたを習います。そう言われても、「私、親から教わった覚えはないよ」って言うよね、だからここで習うの。セックスって性器に包まれることなの、相手と。

みんな、人生の最初はお母さんの内性器に包まれて、スタートしました。子宮の中で胎児として、今日の反省、明日の気がかりもなく、なんの心配もない状態で。そして産まれた後、全身の世話を受け、性器の世話もおむつも。赤ちゃんの世話をしているところ見たことある？ 「いいウンチしたね、よし、よし」って声かけられるでしょ。やさしい声、まなざし、大事にふいてもらうことで、性器は安心できる人に大事に触ってもらうものだと肌で覚えるの。



「よー、よー」って「You are OK」だよ。歯が生えておっぱいを嘔もうが、三時間おきに泣きわめこうが、下痢便をかけられようが、ここにお前が生まれてきてOK、ここにお前が生きていいんだよということ。乳首って嘔まれると結構痛いんだよね。指先って点字が読めるし、指先と乳首、そして唇はとでも敏感。赤ちゃんにおっぱいをあげるときは、優しく見つけて声をかけながら、ミルクのときも抱きしめて、顔をくつつけて目をあわせて、不安なときは抱きしめてね、こうして抱きしめていることが、実は、人間関係、心の関係をつくっている。全身を裸で愛撫されるということ、性器をきちんと世話されるということ。優しい眼差しや触り方、声、そういうったものすべてで、みんなは赤ん坊の時に世話を受けている。愛情と体を許しあう関係って、こういうふうに比例するものだとみんなの体の中に刻み込まれている。だから、「この人と、ここまでいくとやばいな！」ってランプがついたら、それはもうやめておいて。

そして、人間関係の学習を親子関係から、次の友人関係。そして「いいな」と思う、目と目が合う、話す、手をつないだり、体を触れ合ったり、近い距離をとってお互いの中味を話し合ってる段階。人間はこんなふ

うに、「この人なら安心、安全、大丈夫」という人間関係を深めていく。この人ならキスにしても唇を嘔まれない、首を締められる危険もない、一つひとつ「安全か、安心か」を確かめて、神経細胞の多い敏感な部分に触れても大丈夫かを確認しながら、心身が近づいていく。これが「信じる」ってことだよ。その結果、子どもがほしいときに子どもをつくる。

そして、その子どもに愛情とセックスの関係を教えるつもりもなく、一生懸命に育てる。自然と教えていく。そしてまた、親離れして、異性に会い、関係をくくっていく。こんなふうには性と命と親子の関係はスパイラル（螺旋）状に、元に戻ったように見えて、親子は違う方を向いてぐるぐる回転しながら、今、みんなはどのあたりにいるんだろうね。

私がみんなに伝えたいことは、「あなたはとても大事な人だ」ということ。そしてセックスは「自立した大切な自分が、大切に思い合っている人と、責任のとれる範囲を考えながら、望んだ時期にすることであり、妊娠は望んだ結果として存在する」と考えるようになってほしい。ぜひ、自分の納得いく自己決定をしてほしいと思います。

以上で終わりにします。聞いてくれてありがとう。

## セクシュアルヘルスとは？

——自己決定力を育てるといふこと

岡村聡子

(おかむら・そうこ／性教育カウンセラー、  
CSR : Child Sexuality Research)

去る二月一日、私は(財)日本性教育協会で行われた「授業のための実践セミナー」に参加しました。

「最新Sexual Health 教育の実践的進め方」というタイトルルのこのセミナーは、日本性教育協会主催で、特定非営利活動法人ぶれいす東京によって企画・実施されました。

十時半から十六時半まで、午前中に講義が二つ。午後からは三時間のワーク(内容が盛りだくさん。レベルが高く、しかも思い切り楽しめる)という、まる一日のプログラム。これが大変刺激的で、私は強烈なブローを食らいました。揺り戻しをかみしめながら、ここに「ご報告したいと思います。」

### 脅して人間の行動は変容しない

午前中の講義1は、新潟県立看護大学の徐淑子ジュースウキさんによる「保健行動学の視点と日本の若者の保健行動分析」。統計によると若者はコンドームを使わなければならないということを知識としては知っている。が、その知識が行動として習慣化しない。つまり、使うこともあるけれど使わないこともあるというのが現状だ、という報告がありました。知識はもちろん必要であるが、知識だけでは予防・啓発活動としては不十分なのだということでした。

そして、講義2は「ぶれいす東京」代表の池上千寿

子さんによる「知識・モラル教育から保健行動、研究による介入の時代へ」。講義1を受ける形で、池上さんの講義が始まります。

「知識はある。コンドームを使いたいという動機もある。でも動機が継続しない。じゃ、どうするか」。

まず見せてくれたのが、システム手帳に挟める六穴の小型パンフレット「Sexual Health Book」。

「コンドームを使うことはダサイことじゃない。性の健康を考えることはイケてること、という意識の転換を図らなくてはいけない。パンフレットをもらっても、みんな捨てちゃうでしょう？ 都内の大学生や若者たちに『いつも持っているものは何？』と聞いて、全員出したのが『マイ手帳』だったの。文字の情報は必要なものだけ。字が多いとそれだけで読んでくれない。イラストが多くてオシャレでしかも面白くなくちゃダメ」。

一六ページの手のひらサイズのパンフレットには、傑作な名言も。「飛び出すな 卵は急に止まれない」「男はだまってコンドーム」。けれど面白さの中に、避妊、STD（性感染症）の予防、コンドームの使用法も載っている（男性用はもちろん、女性用のも載っている。女性用コンドームの使用法が載っているのは「ぶれ

いす東京」のものだけとか）。

そして、「挿入だけがセックスじゃない」と、ハッとさせられる言葉もあります。メディアやピア・プレッシャー（仲間内からのプレッシャー）に煽られて、「早くセックスを体験しなければ」と強迫的に感じている若者にとっては、焦らなくてもいいんだよ、というメッセージが感じられてホッとするのはないでしょうか。

「失敗が人生の終わりではないんだよ、というメッセージを伝えたかった。脅しでは人間の行動は変容しないし、怖がって知ろうとしなくなる。そうしたら失敗から学べないでしょ」。

パンフレットの最後のページには、電話相談の番号と「ぶれいす東京」のホームページアドレスがのっている。頒価一〇〇円。自治体から何万冊単位で引き合いが来ているとか。

## コンドームを男任せにしない

「コンドームの携帯、装着を男任せにしない女の子をつくらなければならぬわけ」。

池上さんが次に見せてくれたのが「POPちゃんコ

ンドーム」(商品名: Popteen/三個入り三五〇円)。表にはコンドームとは一言も書いてない。油取り紙サイズで、外袋を開けると名刺入れのような箱。イラストはレインボーカラーの背景に今風の女の子。中を開けるとコンドームのパッケージに星占いが書いてある。〃双子座のあなたは……ラブ指数七五%!〃

「若い女の子が好きなもの、そうだ、占いだ! これなら買いたくなるでしょ?」

女子高校生を中心に読まれている雑誌『Popteen』(月四〇万部)と、コンドームメーカー、そして「ぶれいす東京」の三者の連携で、女の子が手に取りやすいコンドームを開発。なぜ女の子用にしたのかというと、女の子が安心して買えるコンドームのパッケージが今までなかったし、女の子がそういう行動をとるということが意識に入っていないから、奨励もされていない。そして女の子は、「妊娠はあなたの体に起こるのだから、あなたがなんとかしなきゃだめなのよ」とよく性教育の対象にはなるけれど、実際に安心して買える商品は無いし、また買える環境にもない。「化粧品コーナーにあったら買いやすいよね」という意見は男女ともにあったという。

コンドームと一緒に取り扱い説明書(裏には装着方

法)はよくできていて、コンドームがベビーオイルなど油に触れると劣化することまで書いてある。試しにドラッグストアで三パック一〇〇〇円のコンドームを買ってきて(〃POPちゃん〃を見た後だと超つままない)、箱をよく見たら一言一句同じ取り扱い説明書が入っていた。「アラ、あったのね」。読みやすく字を組んで、イラストを少し工夫するだけで、まったく印象が違う。

〃Sexual Health News〃には、避妊とSTDの基礎知識が〃エッチゲーム〃としてのついでにある。しかも、No1からの続き物なので他のも見たい!と思わせるつくりになっている。中には、ちずこ先生のQ&A(連載)として、若者たちから寄せられたたくさんさんの質問をもとにして、典型的な質問を作成し、それに池上さんが答えている。とつても今どきの質問ばかり。

「女の子たちが携帯からどんどん質問してくるの。それをもとにしているからリアルタイムな感じが出るでしょ?」

そして、電話相談の番号と「ぶれいす東京」のホームページアドレス。このコンドームを買うだけで、性の基礎知識といざという時の相談先まで載っているわけです。

「最初に置いてくれたコンビニでよく売れたので、Fマートでは、オリジナルを作るようになった」とか。何てスマートで有効な予防発活動でしょう！ だけど、これを中学生の親に見せても、わかってくれる人は五人、いや十人に一人かな。だからこそ、池上さんはダイレクトに女の子たちに届くように、六穴のパンフとPOPちゃんを作られたのでしょう。

ひるがえって、男の子はというと、池上さんたちの調査によると、「コンドームに慣れていないから、使えない不安が強い。あと、大丈夫だろうという根拠のない楽観的態度。ナマでない快感がにぶるという刷り込みもされている。コンドームの出荷量はこの数年減少しています。セックスを経験する前からコンドームに慣れておくことが大切ね。パートナー同士、コンドームで遊べるようになると、使用率も高まるのね。」

やっぱりね、なんでこんな当たり前のことが親には分からないんだろう。中学生の親向けのワークシヨップでコンドームの装着実習をするものすごく盛り上がっちゃって、キャーキャー言ってるお母さんたちが、質疑になると急にハハオヤになって、「子どもの前でコンドームのつけ方を説明したりしたら、いかにもセ

ックスしてもいいよと言ってるように思われるのではないでしょうか。

よくある質問だけど、違うんだな発想が。逆向きなんだよな。黙して、隠して、触れないからこそ、子どもだけで危険地帯に入っていくたくなるものなんだけど。

「行動科学にのつとつて、コンドームの使用を具体的・行動的に練習すること。そしてコンドームをファッション化すること。それが今必要なこと」

池上さんに、がんばりなさい！ と背中を押しても、ええたよう、私は大変勇気づけられた。

### 安心できる場づくりのために

午後からは「ぶれいす東京」の若者グループ☆PEPによる3時間にわたるワークシヨップ。

キーワードは「セックスポジティブとユーモアの実践」。盛りだくさんのプログラムのそここにコンドームの奥の深さがちりばめられています。七人八人ずつに分かれたグループに配られた一本のバナナ。簡単装着コンドーム、そして女性用コンドーム（マイフェミイ）。簡単装着コンドームはコンドームとテープが一

緒に巻いてあるタイプ。亀頭にコンドームをかぶせ、テープをペニスの根元方向に引つばるとスルスルとペニスを覆っていくというもの。練習しないと簡単にはできないなどというのが私の実感でした。女性用コンドームは価格（一個入り八〇〇円）の問題もあつてか、日本での売上げは伸びていませんが、シマイフェミィをどうしたら生徒に伝えられるか々のデイスカッションでは、「タンポンが使えれば挿入は大丈夫。しっかりとガードされている安心感があるし、女の子が自分でコントロールできるから事前に入れておくこともできる。意外とかさばらない」というポジティブな意見が出ました。

一番楽しかったのは、☆PEPと各グループ対抗のコンドーム風船バレーボール。ふくらませたコンドームを六個連結させ（この風船は強い！）、ボールを打つときに自分のグループに課せられたテーマについて何かひと言、言いながら打たなくちゃいけないというルール。ちなみに各グループのテーマは、①セクシーだと思ふ有名人、②どうしてもセックスを連想してしまう食べ物、③色気を感じる身体の部位、④セックスができると思う場所、⑤セイフアセックスの方法。テーマも後のほうが難しくなっていて、構成もよ

くできています。コンドームボールを目で追いながら打つ時とつさに言わなければいけないので、抑圧しているヒマも、カッコつけてるヒマもない。お腹を抱えて笑えた時間でした。

ワークの初めと終わりには、セクシュアリティを話し合う時に忘れてはならない「安全な場づくり」のルールとプライバシー保持の確認もして、とてもよく考えられたプログラムであることを改めて意識させられました。「一人ひとりが守られ、大切にされる時空間なんだよ」、「気分が悪くなったら、気兼ねなく言つて」、「抜けたくなつたらいつ抜けてもいいんだよ」、そんなメッセージが繰り返し伝えられたことも、安心して自分を聞く助けになったと思います。

一日のプログラムで、こんなに深くて面白いワークは、まさに数年に一度の大ヒットでした。そして大きな、大きな宿題もいただきました。「あなたのワークは、参加者全員の安全を十分配慮しているか？」そして、「あなたにとって、セクシユアルヘルスとは何か？」。

★特定非営利活動法人ぶれいす東京 ホームページ  
<http://www.plokyo.com/>

## ほんとうに必要な情報とは —セクシユアルヘルスがキーワード

稲田 恭子

池上千寿子さんは、徐淑子さんたちと一緒に三年間研究してきた若者の性行動・性意識調査の結果から、妊娠については半分が気にしているが、感染症を気にする人は三分の一以下であることを指摘し、これからのキーワードは、自分の性、自分の自分の体といかに上手につきあうかという「セクシユアルヘルス」であり、避妊と感染症予防を分けないで考えることが大切だと主張します。

そして、コンドームの使用率が過去六年間、定着どころかむしろ下降していることに注目し、その要因を探るなかで、コンドームの使いこなし不安と性の健康のリスクについての楽観的態度があること、つまり妊娠では「安全日がある」「中出ししなければいい」という二つの誤解、感染では「相手を選べば（不特定多数が相手でなく、信頼と愛情があれば）大丈夫」という誤解があることに注目します。

さらに、日本社会ではどのような情報発信が行われているか、HIV/AIDS

S予防啓発のパンフレット類を調べ、前述の「相手を選べば大丈夫」というニュアンスで書かれているのが半分あり、コンドームの具体的な使用法に触れているのは半数のみ、感染症についての記述はあっても、避妊についての記述があるものが半数以下で「避妊はピル、予防はコンドーム」という傾向があること、「セックスをしない」という選択があることに触れているものは少ないことなどを指摘し、また若い人たちの性意識に影響を与えるテレビドラマを検証する中で、「言語的コミュニケーションに関するロールモデルの欠如」や「他者依存的展開」「恋愛至上主義」が安全なセックスの阻害要因になっていることを検証します。

これらの綿密な調査研究をふまえて考案されたのが、穴をあけて手帳にはさめるかたちの「Sexual Health Book」。そこに書かれているのは「これだけは覚えておこう、安全日はない、外出しはやばい、ピルでは性感染症は防げない、愛では守ってくれない」という、いままでのパンフレットにはなかった肝心かなめの情報と、若い人たちに考えてもらった、メールで性の保健行動を発信する文章、これまたパンフ類では省略されがちなコンド

ームの具体的な使い方。

そして、学校や地域でもこのメッセージは外さないでほしいと池上さんが強調する二つの重要なメッセージは、「挿入だけがセックスではない」（性的なふれあいはいろんなかたちでできる）と「失敗が人生の終わりではない」ということ。脅して行動に結びつけようというのは長期的に見て効果はないし、失敗したらだめだという情報ばかり入っていると、失敗した人が「自分の人生はもうだめなんだ」と、自分が烙印を押ししてしまうことになりかねないからです。

そして、「こうした活動はセックスの奨励になって困る」と言ってくる人たちに対しては、なるべく小さいときから具体的な行動に焦点を絞って、やさしくわかりやすい情報を提供して練習するのが性教育として有効であり、「セックスをしてはいけません」という押しつけは、むしろ性行動を開始する年齢を早めてしまふ可能性があるとするWHOの報告を引いて反論しています。

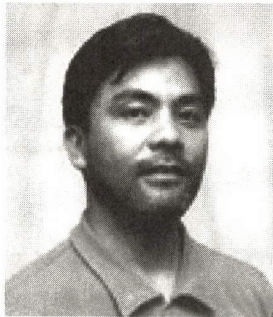
詳しくは「現代性教育研究月報」（財団法人日本性教育協会発行）2003年6月号を参照（日本性教育協会ホームページ：<http://www.jasec.or.jp>）

## エイズ、生、死

聞き手／岡村聡子・稲邑恭子  
まとめ／稲邑恭子

小貫大輔さんは、1988年から5年間、ブラジルのファベラ（貧民街）でシュタイナーの思想に基づいて教育、医療、コミュニティづくりに取り組むグループ「モンチ・アズール住民協会」の活動に参加し、エイズの予防活動にも関わる。小貫さんが居合わせたのはブラジルのエイズ予防の運動が感染者の人たちが主役の運動へと転換していった時期だった。93年～96年は日本で在日外国人のエイズ予防と感染者支援に奔走し、母親対象の性教育のワークショップの講師もつとめる。96年に再びブラジルへ。二度目のブラジルでは「出産のヒューマニゼーション」プロジェクトに関わり、2001年に帰国。2003年4月に再びブラジルに向かうまで、「＜教育の多様性＞の会」「＜子ども時代＞のためのアライアンス」の活動を通じて、教育の多様性をめぐる提言を精力的に発信。

小貫さんを講師に性教育のグループを運営していた岡村聡子さんのお誘いで、9年ぶりに会って、その後の軌跡を聞いた。



### 小貫大輔さん

(おぬき・だいすけ)

1961年東京生まれ。CRI-チルドレンズ・リソース・インターナショナル代表。長年のNGO国際協力活動を通して、市民が教育や福祉を担う新しい社会のあり方を提言してきた。「＜教育の多様性＞の会」、「＜子ども時代＞のためのアライアンス」のアクティブなメンバー。ブラジル女性と結婚し3人の娘の父親。近著に、日本の教育の多様性への提案をテーマにした『ブラジルから来た娘タイナー十五歳の自分探し』（小学館）がある。



## 十代の性教育

**稲邑** 小貫さんの本（『ブラジルから来た娘タイナー十五歳の自分探し』）の中で取りあげられていたオランダの性教育がとても印象的だったので。

**小貫** 欧米圏で十代の妊娠が一番少ないのは、オランダなんです。それにはいろいろ理由があげられていますが、そのひとつに「親子で性についてフランクに語り合う文化がある」ためだと言われていて、アメリカやイギリスのように、親が子どもの性行動を抑圧したり無視する傾向が強く、十代の妊娠率が高い国とよく比較されるんです。

ある人類学者の研究によると、オランダの白人家庭では「十六歳の子どもに恋人ができたら」家に連れてきて一緒に寝ることを認める」と答えるのが多数派（七割）で、思春期の子どもにも家庭医がピルを出すのが普通になっているし、そのことに親の承諾もいらない。

日本は、九〇年代前半までは、十代の妊娠率はオランダより低かったのだけど、九〇年ぐらいから急に上がって、オランダを越えてしまった。初めてセックス

をする年齢が下がっていることも背景にはあるのだけど、それだけでなく、今言った、親子がセックスのことについてフランクに語り合っていないせいもあると思うんです。

確かに、親子でセックスの話はしづらいですよ。子ども時代に、親子で性に関することを話す習慣ができていけば、そのあと自然に話ができるのだけど。でもそこで諦めてはいけないと思うんです。今日より以前の行動を変えることは不可能なことから、今日から始めればいい。やらないより絶対いいし、やればやっただけ答が返ってくる。

ただし、思春期や大人になってから身につけたことというのは、周りからのサポートが必要なものなんです。というのは、身につけた知識はもちろん役に立つんだけど、知識だけ移植すれば行動が変わるわけではないですよ。一回言えばあとは自分でできる、というふうにはなかなかならないので、フィードバックしながら、しよっちゅうその話をしていないといけません。

## 子ども対象の性教育のワークショップ

**岡村** 子どもと母親を対象とした性教育のワークシ

ヨップをつくろうとしているのですが、いろいろ試行錯誤してやってみるのですが、反応もいろいろだし、こちらの思いが空回りすることもあって……。

**小貫** 子どもの性教育というのは、経験的にいって、いきなり性器やセックスの話を始めると、出産というところから始めるほうが、子どものなかではずつと自然ななりゆきで理解できて、うまく行くと思っ  
ています。

「赤ちゃんはどこから出てくるのかな？」という興味  
味が子どもにはあるでしょ。まず、「どこから出てきたの？」という話があつて、「じゃあどこから入ったの？」というふうに進めていくのが、子どもの中のロジックに沿っていると思うんです。「お母さん一人で赤ちゃんができるんじゃないんだよ」という働きかけがあれば、小学校三、四年生だったら、「えー、じゃどうしたらできるの？」という反応が自然に湧いてくる。そこで「お父さんの中にあつたものが、赤ちゃんの出てくるところから入ったんだよ」と言うこともできる。

それと、子どもだけを対象にした性教育をするのではなく、家族をまきこむことがたいせつ。子どもが簡単に受け入れても、家に帰ってそのことを話したとき

に、親に怒られたりするように。

## 〈リズム〉が大事

**小貫** もうひとつ大事なことは、子どもには〈リズム〉が必要だということ。子どもというのは、解放的なこと（エネルギーの発散）が起きた後に集中できるんですね。だから導入として、体を使うことをして解放させたあとに、「ああ面白かったね。じゃあ、今度は座ってくれる」というふうには、集中できるような態勢に持っていく。例えば、シユタイナー幼稚園では、朝、子どもたちが来たときに、まず、みんなで輪を作つて歌をうたつたりお遊戯をしたりして、それが終わると、一人ひとりが自分の席に座つて静かになつていく。

そういう意味で、親子のワークシヨップをやるなら、導入のところから集中に向かわせるための時間が必要なんじゃないかな。そしてワークシヨップの中でも、いくつか〈リズム〉をつけていくことが必要だね。そしてワークシヨップでは、みんなで行うこと、ペアや小グループで行うこと、一人でやること、そのめりはりをつくる。その〈リズム〉が大事。例えば「最初に、

みんなにちょっと聞きたいことがあるんだ」と言ってから、一人の子どもに「ちょっと君、身長何センチ」と話しかけて、次に「こんなでつかい子がどこから生まれてきたんだと思う？」って、質問をみんなにふつてみる。子どもたちがそれぞれ、「どこだろう？」って考え出したところで、「ちょっとお母さんに聞いてごらん」と促して、一人ひとりがお母さんと話す時間を作ったりできるのでは。

ワークシヨップというのは、学校の授業みたいに、先生のほうをずっと向いて集中させるのとは違うんです。内容を考えて流れをつくるときも、解放↓集中↓解放↓集中↓というリズムを考えながら計画して、本番では、子どもたちや参加者の様子を見ながら、「これじゃ、集中できないな」とか、「ちょっと解放しすぎちゃったな」とか、反応を見ながら進めていけばいいと思います。

## これからは参加型の授業

**小貫** 大きさに聞こえるかもしれないけど、僕は、二一世紀は人類が違ってくる、と思っっています。これからの子どもたちは、集団で一方的に授業をするとい

うのがそぐわなくなってくる。背景にある親子関係だってみんな違って、誰もが個別の人間で、自分で考えるということが中心になると思うんです。

これからは、授業も違ってくると思う。生徒が参加する授業。どう展開していくか、やってみないとわからないということを受け入れてはじめて成立する授業。失敗も含めて、参加者の中から出てくるものを期待して、そこに向き合って、誰かが予測のつかない発言をしたり、動きをしたときにも対応できるというのが、これからの教師に問われる資質だと思う。プランはたいせつ。でも、それを柔軟に変える気持ちがないと、授業をやる意味がない。

## 自然体でいい

**岡村** 私はもつと気軽に家庭で性の話をしてほしいと思っって、セックスとか、性器の名前とか、繰り返すと、参加者が引いちゃうことがあるんだけど……。

**小貫** 例えば、「性の話をしましょう」といったときに、一九七〇年代だと、「今まで口に出して言えなかったセックスとかいう言葉をみんなで勇気を出して言ってみよう」という感じがあったと思います。そ

それを言わせようとか、抑圧から解放しようとか、ちょっと気分った感じ。でも、今の時代にやるんだったら、もっとさりげなく、自然体でいいと思うんです。

家で性のことを話せない人がいるのはわかっている。でも、ちょっとしたきつかけさえあれば話せる人もいますよね。だから僕は、その人たちの助けが出来ればいいと思っています。例えば、ワークシヨップに参加した人が、「あのあと家に帰って、ちようどいいチャンスだと思って、餃子を焼きながら、子どもと話したんですよ」なんて言ってもらえたとすごくうれしい。

## オランダの変化

**稲邑** オランダはかつてはキリスト教の影響が強い保守的な国だったそうですが、その国で、性のことがオープンに語られるようになった背景は？

**小貫** かつてオランダは、キリスト教の影響が強く、カソリックとプロテスタントが対立していた国です。それが一九六八年を境にすっかりかわってしまっただ。それ以前は保守的な国として知られ、ローマ法王が世界でいちばん信仰の厚い国だと喜んでくらしい多産の国だった。それが、一九六八年というフラワームーブメ

ントの年を境に、「自分の人生は自分で決める」という態度が強くなった。女性の生涯で作る子どもの数も三人以上だったのが、六八年以降急速に減り、八〇年代前半には日本より一〇年先んじて一・五人を切っている。宗教の影響が弱まり、教会のミサやサービスが成立しなくなつて、今ではホテルや美術館に売り渡されてしまった教会がたくさんある。

オランダほど一九六八年の世界的な変革の波のインパクトを強く受けた国はないと思います。自分の人生について意識を高く持とうという国になって、国民全体にリベラルな傾向が高い。

## 変革の本質は、自分で考えること

**小貫** この二十年ほどの間、いろんな国を渡り歩いて気づいたのは、物事は一世代、二十年で変わるということです。ブラジルも、一昔前は、セックスの話が苦手な国がらで、八〇年代までは、人前では自分がゲイなどとは言えない、言うとき殺されかねない国だった。それが、二〇〇〇年までには、ゲイ・ムーブメントが世界で一番強い国のひとつになっている。今日のサンパウロはサンフランシスコの雰囲気を持っているんで

す。例えば、東京でゲイパレードをやると集まるのは三千人だけど、人口がほとんど同じサンパウロでやると、七〇万人の人が集まる。それはもちろんゲイだけの数ではなくて、七〇万の市民がパレードを見に来るということですよ。こうしたことは八〇年代には想像もつかなかったことで、やはり二〇年間での変化です。

〈自分で考える〉こと、自分自身の明晰な理解のもとに自分の信じることを探して行動に移すということが、六八年のムーブメントの本質だと思うけど、日本では表面的にその運動が真似されても、その本質が何かということは理解されなかった。六八年に比較できる変換期を日本がようやく迎えたのは、僕の場合は、二〇〇二年じゃないかと思うんです。六八年の西欧では、その変革は例えばヒッピーのフラワームーブメントとして現れたのだけど、いまの日本で一番本質的な変革って何でしょう。〈自分で考える〉ということに直接結びついていて、全国レベルでムーブメントになりうるものは何だろう。ぼくは、それは自分で学校をつくるということだと思っただけです。

いまの日本で、全国レベルで体験されている一番の息苦しさは、体制に押し付けられた学校にしか行けないということだと思う。ただ、この体制が崩れると、

市民もすごい責任を負うことになる。でも、今これを崩せば、このチャンス逃さなければ、二〇年後にはこれは面白い、日本の教育はすごいと言わせるものが生まれていると思う。

### セックスのことは、自分で考える

小貫 性教育は、一九六八年に西洋で起きたことなかでも、重要な要だったと思います。性革命というと、不特定多数の人と愛もなくセックスするというのがイメージがあるけど、そうじゃなくて、「セックスのことは自分で考えましょう」ということ。何も考えないで「一生に一回誰かと結婚して、その人とセックスをして子どもを作ってそれでおしまい」というわけではなくなったということなんだよね。

ただし、人間の生活のなかで〈自分で考える〉という意味では、セックスはすごく上級編なんです。職業は何にしようか、誰と結婚しようか、何を着ようかというのも自分で考えるけど、セックスについて考えるということには、なかなか手が出なかった。

食べるということに関しても、かつての伝統的な食事が失われていく過程では、その分、食に対する意識

が高まつていないと、アメリカ社会のようにめっちゃくちゃな食事をして健康を害するという社会現象が起こる。自分の頭の中で、何を食うと何が起ころうとかが分かっている、それを食い止めることが出来ない。セックスも、意識を高めた上で、自分で理解してしなければならぬ。だけど、セックスのほうの方がよりはずっと上級者編なので、なかなか成熟には辿り着かない。

なぜセックスは特別、上級者編かというと、セックスはやはり霊的なことと結びついているからだと思う。死ぬこと、生まれること、セックスをすること、この三つがまさに三途の河のように、こちら側の世界と向こう側の世界の間にある。往って還って、霊界から現世に新しいものをもたらす出来事。死ぬことよりは、セックスのほうはまだ向かい合いやすいけど。

## エイズ、出産、死

**小貫** その意味で、エイズというのは、セックスに死が入ってくるので、さらに上級編なんです。エイズは、日本人にはなかなか切実な問題として捉えられていないけれど、逆に言えば、まだ日本人の手に負えないから、降りかかってこないような気もする。

僕は、エイズというのは、人類が性についていろいろ学び、自分で考えて、対処できるようになった頃に降りかかってきた、と思っっているんです。できるようになった頃に降りかかって来たということには、二重の意味があつて、ひとつはセックスが解放されていなかったら起こらなかった。セックスのことは自分で決めるという状況そのものが、逆にエイズが広がる素地でもあつたわけ。そこが、スフィンクスの謎みたいな気がするんですね。

多くの仕事の軌跡をたどっていくと、性教育のあとにはエイズの仕事を手をつけて、エイズの次に出産をやっているんだよね。出産もほんとに面白いからね。もつと成熟してくると、またどこかで死という仕事があるのかもしれないですね。

人類が取り組まなければいけないことには、エイズ、出産、死、という難しいテーマがいくつも残っていると思います。それらのテーマに共通しているのは、「自分で考えるんだよ」ということ。正面から見つめて知識をもって、それに自分で答えるんだよ。眼をつむっていけば周りの人がやってくれる時代は終わったんだよ、ということなんです。

## 二〇〇二年は革命の年

**小貫** ボクのなかに、「二〇〇二年は日本の革命の年」というイメージがあった。僕が日本を体験したのは、二〇〇一年〜二〇〇三年にかけてなんだけど、二〇〇二年に日本にいた感じは、その前に九三年〜九六年に日本にいた感じとは違うんですね。

九三年に社会をリードしてた人たちは今、六〇歳代で、ごそつと引退している。今、社会をリードしているのは、あの当時三〇代、四〇代だった人たち。当子どもだった人たちは今はもう二〇歳になっていて、全然違う世代を作っている。時代が新しくなっている感じがする。つまり、一〇年前とは違う素地があるなと感ずる。

現在の六〇歳代の人たちが現役を退いたあと、その次の世代は何をどうしたいのか分かんなくなっちゃったように思います。たとえば、一〇年前は役人が、よく言えば気骨があった。悪く言えば頑固で話にならなかった。今の役人は気骨がなくなつて、ふらふらしてる。でも、その分言うことを聞いてくれ、文句を言うと言ってくれる。その意味では、チャンスでもあるん

だけで、リーダーシップのない国にもなつてしまった。僕の勘としてはね、「自分で考える」という革命をやるのは、現在二〇代、三〇代の人たちだと思う。僕は四二歳なんだけど、自分ではそっちの部類に属すると自負しているの、先輩格にあたるわけ。これからの人は、ボクが体験したこと、つまり就職しないとか、海外経験を積むとか、そういうことを重要視する人たちがたくさん出てくると思う。

僕は、以前は日本に帰ってくるのが嫌だった。日本人に受け入れられていないという感じがあった。父親的な態度が怖くて、今でも日本人の権威的な男性に対してはトラウマがある。正面切つて楯突けないから、無視するか避けて通っている。それが今の若い人たちは、全然恐がらないで、言いたい放題。そういう意味ではいまのような状況はとて面白い。一〇年前と今と日本もそれくらい変わったと思う。

## 日本の子ども

**小貫** 日本の子ども時代は、欧米の子ども時代と違うと言われます。しつけが違うということ。伝統的に、欧米の子どものしつけというのは犬猫のしつけと同じ

で厳しくやるけど、日本では幼児期、つまり七歳くらいまでは「いけません」というのが厳しくない。欧米に比べたら「甘やかしてる」、ということになる。欧米の子どもに比べて日本の子どもは、小さいときに自由に思いつき遊ぶというのが、僕にとつての印象です。遊ぶって、すごいことで、子どもはすごい集中力で全身のバランスを使つて遊ぶわけですよ、誰に強制されるわけでもなくて、うちから湧き出る願望によつて真剣に毎日やるわけです。

僕は、そうした遊び体験が、日本人に意志の力というか、「やると決めたらやる」という力を養ってきたと思うんです。『菊と刀』という本でも、日本人の子育ては違う、とはっきり書かれています。シュタイナー教育では、意志の力は人生の最初の七年間で養われると言っただけけれど、日本人の特徴というのは、この意志の力にあると思います。

しかし、そのような特徴的な子ども時代が、この十年で瞬く間になくなつてしまった。カバンを家に放り出して遊びに行くなんて、なくなつてしまった。田舎にもない。子どもがいなさすぎて。都心にもない。安全じゃないから。それができる環境は、埼玉の飯能あたりの、都心の周辺のうちすつぺらなドーナツのよう

になったところにしかない。あのへんにはまだそういう子どもの遊びがある。都心の子どもは電話して約束して、お互いの家でテレビゲームなんかをやっている。昔だったら遊びによつて意志の力を養っていた時間を、テレビとビデオゲームにすべて使つてしまう。そういうふうにして大人になつてきた人たちをつかまえて、最近の若い人たちはダメだ、って大人たちは言つてるわけです。

『菊と刀』では、日本では子どもは天国で大人は地獄だという。西洋は反対に、子どもは地獄で大人は天国。つまり、子どもときは何も自分らしくさせてくれないけど、大人になると自分らしく生きられるようになる。日本では子どもときは自分の好きなことをやっているけど、九歳をすぎると、自分らしく振舞うことを禁止され、人生というのはつらいことだと学ばされるのだそうです。もう子どもじゃないんだから、これからは、人生は厳しいんだということを学ぶ、つまり自分らしく生きることが許されないのだということとを学ぶのだそうです。『菊と刀』の半世紀前の当時は、それが九歳、一〇歳で始まるとされたけど、おそらく今の日本では中学生の時だと思つて。

西洋の人たちは、思春期になると自分というものを



追究する。ところが日本人は逆に、思春期こそを、つまり中学生と高校生を一番抑圧する。大学のときだけはモラトリアムかもしれないけれど、就職するとまた自分らしくなれない。そういう社会って、武家社会に端を発して軍国主義の明治、戦後の経済戦争時代に至るまで続いているのだけど、「意志の力だけは強いけど、自分では考えない」国民を生む、全体主義国家にこそ都合のよい社会だと思ふ。

日本人が唯一自慢にすることのできた「意志の力を養う」子ども時代ですが、それがいま奪われつつある。全身を使って集中する遊びがなくなっている。ビデオゲームというのは脳と指だけ、目は一点しか見ていない、一点見ている場所をものが通過して行くだけで、ものを追うということがない。そういう変化が、九〇年代を通じてほぼ完結しようとしていると思います。

そこに国家はまた、学力が低下しているから宿題をもっと出したほうがいいとか、小さい時からコンピュータを学校で教えたほうがいいとか、まったく的外れなことしか考えない。でも、もつと恐ろしいのは、政府の回答が正しいことであろうが間違っているように、全部一方向的に我々に押しつけられること。それがいま話題になっている教育基本法の改定の一の問題なん

です。一人ひとりが考えなければならぬことなのに、一部のエリートが全部決めて、我々が従わなければならないというところが一番悪い。

### 3つの座標軸

**小貫** 僕が日本とブラジルとオランダの三つの国を選んで往ったり来たりするのは理由があるんです。この三つの国が僕にとって面白いんですね。

シユタイナー教育では七歳までは意思の力、七歳から十四歳までは感情、十四歳からは思考を鍛えるのが大事だと言っている。それに対応するように、日本は意思を、ブラジルは感情を、オランダは思考を大事にする国なんです。それに、オランダはドイツという巨大な文化圏の、ブラジルはラテン（スペイン・ポルトガル）という巨大な文化圏の、そして日本は中国という巨大な文化圏の周辺国であって、僕なりの言い方をすれば、それぞれ、本国にはできないことをやらせるために実験的に生まれた国みたいなものなんです。つまり、本国というのはできあがっちゃうと変えられなくなるのだけど、周辺国にある重要な実験を任せてやってもらうことができる。ドイツ人ができない最も

ドイツ的なことをオランダで、スペイン・ポルトガル人にはできない最もラテン的なことをブラジルで、中国人にはできない最も中国的なことを日本で、というふうに。

そういうふうに、僕の頭では、文化的な意味ではこの三つの国を参考にするというか、オランダ人が考えるところとどうだろう、ブラジル人だっただろう感じるだろう、日本人だっただろうやるだろう、というふうにつきも三つの座標軸で考えているんです。そうするとすごく難しい問題にも答が出てくるように思えるんです。

小貫さんのモンチ・アズールの活動については小誌九五五年十一月号に創始者ウテ・クレマーさんの講演録を掲載、ブラジルでの活動は九三年十一月号のインタビュー、及び九四年五月号に掲載されたシンポジウムの記録をご参照ください。



## からだで感じるエンパワメント 自己防衛プログラム WEN-DO初心者向けワークショップ

Wen-doは自分の力を実感し、自分に自信を持てるようになるプログラムです。表情、口調、ボディランゲージ、声の大きさ、抑揚など、相手に影響を与える効果的な方法を練習して、相手からの攻撃をそらしたり、最小限の力を使って自分の身を守る方法を学ぶことができます。初心者向けワークショップ（1時間～3時間）には、地域で活動している女性グループ、学校、女性センターなど、10歳以上の女性であればどなたでも参加できます。

- 内容 自分を守るために大切な考えや情報の提供、女性の暴力についての話し合い  
実技 パニックを防ぐ呼吸の方法・声の出し方/手や腕をのはずし方がいじめにされたとき、首をしめられたときの対処法  
手と脚を使った防御法（3つの手の動き・脚の蹴り）  
ひじを使った対応法/防御の方法 など

※時間・対象年齢等によって内容はかわりますので、詳細はお問い合わせ下さい。

# Femix

フェミックス

フェミックスは出版とフェミニストセラピを事業の両輪としています

◎お問い合わせ・お申込みはフェミックスまで。  
電話、電子メール、あるいは下記に記入してファックスでお送り下さい。  
東京都世田谷区池尻3-2-3-703 (〒154-0001)

TEL/ FAX03-3424-3603  
E-mail femix@mail2.alpha-net.ne.jp

## ゲイコミュニケーションと エイズを考える

—あなたの腹の括り具合はいかに？

永易 至文

(「にじ」編集人)

昨年十一月号で自己紹介させていた  
だいた、季刊「にじ」です。「暮らしと  
コミュニケーション、NPOを結ぶ、同性愛  
者のライフスタイル創造マガジン」と  
いうキャッチフレーズですが、ゲイ・  
レズビアン以外のかたがお読みになっ  
てもオモシロい、「暮らしの手帖」あるい  
は「思想の科学」(懐かし)のような雑  
談です。

実際、「We」五月号では編集部の中  
村さんが、「にじ」四号掲載の宮崎哲弥  
さんの「六〇年代生まれ」論に共感を  
示され、それに六月号では読者の白崎  
一裕さんが、ご自身が六〇年代生まれ  
の立場からレス。社会形成にロッキの  
「寛容」論の大切さを述べていました。  
ところが、その「寛容」論について、  
つとに「にじ」創刊号で在野の思想  
家・関曠野さんが「人権ってなに」を  
説いて、ロッキ的寛容の再発見を訴え

ているのでした！

さて、その「にじ」五号・特集「エ  
イズ・人・カネ・コミュニケーション」がで  
きたのでお送りしたところ、性教育特  
集ということで、また紹介の機会を与  
えていただきました。

性教育の秘伝、その第一は、「セッ  
クスは」人間のすることですから、な  
んでもある」と腹を括る、というのは  
いかがでしょうか。ゲイとエイズを考え  
ることは、まさに、あなたの腹の括り  
具合はいかに？ を問うことかもしれ  
ません。

学校という場所は、「正しい」ことが  
大好きです。最近、佐賀県をテーマに  
した歌が流行っているようですが、「佐賀  
では車も来ない道路を、ヘルメットを  
かぶって通学する」と歌ってました。  
交通安全を言えば、万々に備えるのは  
正しいでしょうが、子どもはいい迷惑  
です。でも、だれもそれを止められな  
い。世間ではオカシイことでも、教育  
の場って、「正しい」ことに呪縛されて  
います。

その「正しさ」主義の学校で性を語  
ることは、ながらくタブーでした。時  
代に押されて、ようやく性教育もメジ

ヤーになってきましたが、こんどは性  
が「正しく」語られる状況になりました  
(とはいえ、最近では「行き過ぎた性  
教育批判」や純潔教育再燃など、反動  
派が勢いづいています)。コミュニケ  
ーションとしてのセックスとか、同性  
愛や同性障害などについても、「正  
しい」知識と情報を伝える試みがされ  
ています。

しかし、「正しく」語れば語ると、  
行きずりの、快楽のためのセックスの  
現実や、そんなに正しそうでもない  
「ホモ」や「おかま」たちの現実、無  
視されてゆきます。なんのことはない、  
旧「正しさ」主義が、新「正しさ」主  
義に、とってかわっただけです。

ゲイコミュニケーションとエイズを考える  
とき、それを見なれていない人には、  
目をそむけたいことも多々あると思  
います。たしかに男性同性間でのHIV  
の感染は、男女間にくらべて大きな伸  
びを示しています。ゲイコミュニケーション  
のほうが発行情報が進んで、検査に行  
く人が多いため、現れる数字も大きい、  
とも言えますが、感染拡大は事実でし  
ょう。

そこには、アナルセックス(もちろ

ん、男女間でも楽しませんが）など、コンドームを使わなければ危険性の高い行為や、ハッテン場と呼ばれる性的出会いの場の存在もあります。ハッテン場は旧来からの公園などのほか、ゲイサウナやビデオボックスなど有料施設もあり、そこで手当たりしだいに男たちが乱交している、と聞けば、世の聖人君子は、いかが思召すでしょう。また、ネットやケータイの発達は、行きずりの出会いや、通称セクフレと呼ばれるセックスだけの人間関係も促しました。

エイズは、難病と偏見に負けずにけなげに生きる「ジョナサン君」の物語ばかりではありません。エイズ患者・感染者との共生などと「正しい」ことを言う人は、「ハッテン場のホモたち」とも共生できるか、よく考えてください。しかし、ティーンエイジャーのゲイのなかには、すでにこうしたセックス・コミュニケーションに参加しはじめている子もいるし、なによりこれもまた人間のすることであれば、なにを嘆かぬまいさらに、というところでしょう。

ゲイコミュニティのなかには、そういうセックス文化も自分たちの一部と

して肯定し、そのうえで、病気があることを前提として、それに感染しないための安全なセックスのスキルをどう伝え、さらには感染した仲間をどう孤立させないか、そのことを考え、行動する動きも出ています。また、それは行政との連携なくしては不可能です。厚労省やエイズ予防財団、都庁などとゲイのエイズ活動家が連携し、納税者であり主権者としてのゲイが、自分たちマイノリティの健康問題にもきちんと税金を使い、と求めていく姿があります。

『にじ』五号では、ゲイコミュニティのエイズをめぐる、まさにそうした動きを追い、集めて編集しました。たしかに、ゲイ男性を中心とした編集ですが、ゲイ男性への感染予防やケアがきちんと行なわれる体制がつくれたとき、それはどのような人にも、予防やケアが行き届く体制でもあるでしょう。白崎さんが先月号で、わかりあえるという幻想を捨てて、だからこそ、辛抱強くルールや制度を作成する努力が必要なのだと言っていますが、社会がゲイとエイズを含みこんで、いかに再構成されるべきかの問いは、まさにこの課

題なのだと思います。その意味で、ゲイコミュニティに関わるかた以外にも、読んでいただきたい特集です。さらに、SARS騒ぎでまたぞろくり返された「病と差別」の問題を考えるために、ハッテン病者のかたのインタビューも載せました。

今回の特集は、すぐ授業で使えるというものではないかもしれませんが。また、性教育一般からは、多少、特殊な素材かもしれません。しかし、「セックスは人間のすることですから、なんでもありでしょう」と腹を括るには最適だと思います。いわば、セックスともろに向きあうことで、自分のなかの無意識の「セックスフォビア（恐怖症）」を打ち壊すきっかけになるかもしれません。エイズを一つの、しかし、やっかいな性病と見て、賢く対処することが求められています。

『にじ』を購入するには、大きな書店さんのジェンダー関係コーナーか、直接、にじ書房へ。電話03-3385-0621、<http://www.nishobo.co.jp>へ。税込み840円。定期購読・バックナンバー注文も可能です。

## 江口凡太郎

北海道滝上高等学校

七月に二人目の子が生まれる予定です。今日で三五週、妻は元気で、子も順調とのこと、ありがたいです。

一人目は、開業助産師さんにお願いでして自宅出産でしたが、今回は、総合病院にお世話になっていきます。初めての病院出産に、期待と少々不安、そして教材探しの日々です。

病院主催の両親学級があると聞き、さっそく妻と出かけました。医師曰く、二〇〇〇年、一年間に一二〇万件のお産があり、七八人の母親がお産で亡くなり、新生児は六八八一人が亡くなっているそうです。妊娠し

たと聞くと、「おめでとう」と挨拶しますが、無事生まれて「おめでとう」ではないかと、いつも思っています。

さて、助産師さんがお産人形？を使ってお産の経過を説明してくれました。保育人形に臍帯、胎盤がついていて、母体もあるのです。母体から胎児が出てくる場面をリアルに再現できる、よくできたものです。元々は、看護学校の教材だそうです。

これは、いい！そう思つて、最後に残つて、助産師さんにもう一度、お産を再現してもらい、デジカメに収めました。デジタルスライドでいいものができました。

また、この日は初産婦対象の教室なので、病院の施設見学ができました。許可をもらつて、新生児室、陣痛室、分娩室などをデジカメに収めました。妻も、私も初めて分娩台を生で見ました。マイコン制御の油圧ジャッキで角度は自由自在？最新型分娩台が輝いていました。助産師が、「どなたか乗りませんか？」と声をか

けたので、「乗ります！」と張り切つて乗りました。体にピツタリフィットする感じにできていて、踏ん張り用の鉄棒が頭のすぐ上にあり、足はもちろん大腿開きで、固定されるようにできていました。この、私の姿を妻が撮影してくれました。周りの人が笑っているの、分娩台の上で自己紹介をしました。「変な趣味ではありません。高校で家庭科を教えていますー。」

デジカメとパソコンは便利です。翌日には、教室でスライドショーです。担任するクラスで分娩室を見せると、「せんせー乗つたんでしょ？」「もちろん！」（クリック！）「さもー！」子ども達の期待は裏切りません。「この写真誰とつたの？」「妻だよ」「せんせー幸せだね、いい奥さんだね」

本当に、その通りだと思つています。妻の許可を取つて、この先も可能な限り生きた教材をつくりたいと考えています。

生徒たち、最初は「ムズカシー。そんなのわかんねー」とブツブツ言いながらも、ほぼ一時間、飽きずに書いてくれました。

その後、「一人一人の20年後」を、理由も含めて、それが誰のものであるかを当てていてもらいました。

「わかった。それって〇〇でしょ。だって毎週日曜日の午後、競馬場で過ごしてるなんて、〇〇に決まってんじゃない」

「仕事は物書きで、執筆活動の合間に海外行って、翻訳とかしてるって、絶対△△ちゃんでしょ」

みんな、それぞれ、自分にしかわからない未来のコトを描いているにもかかわらず、今現在のその人らしさが、いろんな部分に表れていて、それが誰の未来なのか、見当がつく人が多いのも、このこの授業のオモシロイところなのかもしれません。

このワークでは、何も将来の進路を決定させるのが目的ではなく、20年後の未来を描くことを通して、「自分の人生の主人公は自分なのだ」ということを、改めて認識してほしいのです。

最後に、生徒の感想をいくつか。

「みんなのそれぞれの“これから”には、“今まで”がたくさんつまっているなと思った。おもしろかった。まだまだクラスの人のこと知らないな、と思う人もいた。20年後にみんなで今日のやつ見たいね」(女子)

「みんな自分の世界があってイイと思った。なんだかんだでみんな目標をもつて生きてるんだな～って思った。形にとらわれずに自分の思った理想を正直に目指して行くのはむずかしいけど大切なコトだと思った」(男子)

「10年後、20年後を想像するより、明日を予想するほうが大へん!!」(男子)

やっぱり、今の若者たちも、みんな将来のコトをちゃんと考えてるんだなあ、とちょっと嬉しくなりました。

「20年後の自分」は、生徒たちからの希望もあって、秋に行われる学校のフェアで、高3の全クラス分をパッチワーク風に展示することになりました。

【参考文献】 「なりたい自分になれる本」上野千鶴子編、学陽書房  
「家庭科ワークブック」牧野カツコ編、国土社

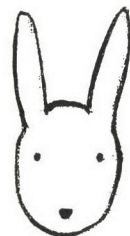
気まぐれ連載 ④

## カトーさんの授業スケッチ

“20年後の自分を描く”の巻

加藤昭仁

私立中・高校家庭科教員



フリーター400万人の時代を迎え、「最近の若いモンは、ちゃんと働く気があんのか！」なんて、オトナたちのささやきが聞こえるこの頃。高校生を相手にしている僕としては、目の前の生徒たちに、将来のビジョンについてちゃんと聞いてみたいなあと思っていました。

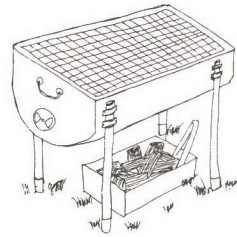
そこで考えた高3の授業が、“人生をデザインする”と称して、18歳の彼ら・彼女らがこれからの人生で出会うであろう出来事（就職、結婚、子育てなどのライフイベント）を、自分だったらどうするか／どうしたいかという視点を軸に、シミュレーションしてみようというものなのです（4月号参照）。

導入として、最初に「これまでの自分をふりかえてみよう」（幼・小・中学時代に、楽しかったこと、つらかったこと、将来なりたかったものなどを表に記入する）というワークをして、それに引き続き「20年後の自分を描く」というミニ・ワークショップをやってみました。

このワークでは、まず、一人ひとりに白紙のプリントを渡し、20年後どんな仕事をしていると思うか、誰とどこでどんな暮らしをしていると思うか、またどんな世の中になっていると思うか……などについて、自由にイメージして、イラストもつけて書いてもらいます。全員に書いてもらったところで、僕が回収して一枚一枚読み上げ、それが誰の書いたものかを当ててもらおう……という、実にシンプルな授業なのですが、これが生徒たちにはなかなか好評でした。

「カトー、これって別に現実的じゃなくていいわけ？ 妄想でもいいの？」

「もちろんOKだよ。だって20年後のコトなんて、誰にもわかんないじゃん」



## 野外料理

木漏れ日の中、そよ風に吹かれながら屋外で食事するのは気分がよい。子どもの頃、庭にテーブルとイスを出してお昼ごはんを食べ、なんでもない食事がとても魅力的になったという記憶がある。そんな記憶から、我が家でも庭で休日のランチをと、一九八〇円でよく売られているテーブルとイスのセットを出してみるが、なんとも安っぽい。それに、少し暑い

ともう不快でだめ、寒くてだめ、五〜十月は蚊がいるからだめ……と、夢の「庭での食事」を楽しむことができないのは、ごく限られた時期だけ。なかなかイメージどおりにことは運ばない。

とはいえ、庭で食べるだけでも新鮮で気分がいいのだから、ましてや景色のいい、自然がいっぱい場所に出かけ、おいしい空気の中で小鳥のさえずりを聞きながら食事を作って食べるのは、すばらしく楽しい。

また、ガスや電気で簡単に調理ができるようになって久しい現在、火に親しむ機会は少ない。マッチを摺ることすらほとんどないのだから、火をおこし炭や薪を燃やすのは、たとえ煙が出ようと、新鮮でわくわくする作業だ。そして何より、炭火で焼くと格別においしいときている。家の中では煙

モクモクでそうそうやってられない煙製なども、アウトドアなら可能だ。

食後、満天の星空の下、焚き火を囲む。子どもたちは火遊びが楽しくて、火の粉を浴びて服に穴を開けながらも、枯れ枝に火をつけては振り回している。小枝にマシユマロを突きさして火にかざす。少し溶けてきたところをチョコレートとともにビスケットに挟んで食べる。マシユマロがススだらけでも真つ黒こげでも真つ暗闇では平気。焚き火の炎に照らされ赤く火照った顔は、どの顔もおいしそうだ。あわただしい日常から逃れてのゆつたりとしたひととき……。

ところが、キャンプ場に軍服や迷彩服に身を固めた集団が集結し、BB弾というプラスチックの弾を銃で撃ちつつ山の中を駆けずり回っている。戦争ごっこをしている



大人を実際に見て、信じられない  
気持ちだった。また、缶やビン、  
ペットボトルやスチロール樹脂容  
器など大量に使い捨てにし、平気  
でゴミを置き去りにする人々や、  
殺虫剤を撒き、下水も浄化槽も何  
もない山の中で合成洗剤で食器を  
洗う人々の姿を見ると、傍若無人  
に自然を汚す人間という生き物が  
自分も含めてイヤになってくる。

一方、帰りぎわ、「さあ、ゴミを  
拾いましょう」との母親の一声で、  
子どもたちが、自分たちが来る前  
からあったゴミもあたり一面全部  
拾い、他の人が入れていたゴミ籠  
のごみまですべて、車に詰め込ん  
で持ち帰った家族もある。見習い  
たいものだ。

今回は、以前キャンプへ行った  
ときに炭火で焼き、美味この上な  
かったタンドリーチキンを紹介し  
よう。本来はタンドルと呼ばれ

るかまどで焼くインド料理。ヨー  
グルトと香辛料に漬け込んでおい  
てから焼くので、漬け込んで冷凍  
し、そのまま持つて行つて、解凍  
した頃焼けばOK、というアウト  
ドアにもつてこいのお手軽さ。ま  
た、ナッツとして食べるガルバン  
ゾ（ひよこ豆）はあまり好きでは  
なかったのだが、カレーにすると  
とてもおいしい。

豆のカレーを作り、チキンとチ  
ヤパティも焼いて、ついでにサリ  
ーをまとつておでこに朱を入れ右  
手で食べれば、先の迷彩服軍団に  
対抗できるかも。そしてごみは持  
ち帰ろう。

### ●タンドリーチキン

「材料5人分」鶏肉500g、塩、  
レモン汁各小さじ1、ヨーグルト1  
カップ、しょうが、にんにく各一か  
け、スパイス各種（クミン、カルダ  
モン、コリアンダー、ターメリック、

レッドペッパー、ガラムマサラ）

「作り方」①鶏肉に塩、レモン汁を  
まぶしつけておく。②ヨーグルト以  
下の材料を好みで混ぜ合わせる（ス  
パイスは、カレー粉だけでも可）。③  
①を②に半日以上漬け込む。④炭火  
または230℃のオーブンで焼く。

### ●豆のカレー

「材料5人分」ひよこ豆1カップ、  
たまねぎ2個、しょうが、にんにく  
各1かけ、トマト缶1缶、スパイス  
各種（右に同じ）

「作り方」①豆は一晩水に漬け、や  
わらかくゆでておく（水煮缶を使っ  
てもよい）。②たまねぎ、しょうが、  
にんにくはみじん切りにし、じつじ  
りと炒める。次にトマトも入れて炒  
める。③好みの分量のスパイス（カ  
レー粉でも可）と豆を加えて炒め合  
わせ、さらに豆の煮汁と塩を加えて  
煮込む。最後に好みでガラムマサラ  
を加える。

（さかもと・かおる イラストも著者）

# 木村栄

連載「女が歳をとるといふこと」  
74

## 「植物的人間」

雨。絶え間なく降る。道も木も家もどつぷりと雨に浸かって、こんな日はやたら体が重い。皮膚という皮膚から水を吸い込んで、手足も頭もずっばりと重だるく、まるで全身、一個の水袋。

そして、翌日、爽やかにカラリと晴れると気分もカラリと軽く、頭も体も十分に巻き上げたゼンマイじかけの人形のように、キレがよい。

もちろん、干天に萎れることも、恵みの慈雨に生き返ることも人一倍。まるで植物みたいに、身も心も天候に左右されるようになった。

そんな「植物的人間」にとって、コンクリートの照り返しとクーラーの室外機の吐き出す熱で、



人工的な猛暑になった東京の夏はやたら過ごし難い。

せめて、一週間ほどの避暑を「にんじん」にして、ひと夏の元気を維持するというのは贅沢だろうか。年々、そんな思いが止み難くなって、この夏ついに格好のホテルを見つけた。

シングルがあつて、二食三千円の家料理が選べて、しかも連泊料金は通減制。それも四泊目以降は半額になるという。一人滞在にはうってつけである。ならばと、財布にムリを言つて四泊の夏休みをとることにした。

そして今、足元から天井までのガラス一枚を隔てた原生林の只中にいる。

間近に向かい合う濃い緑のざわめきは怖いくらいだ。特別気温が低いわけではないが、朝夕が涼しく、澄んだ空気が気持ちよい。外輪山の連なりを展望する露天のにごり湯につかつて手足を伸ばすと、ながーい溜息が出た。

自然との一体感がコンセプトだそうで、別棟の食堂や風呂やフロントに行く度に履き物をはきかえて外に出なければならぬのが面倒だが、その都度、緑の風やせせらぎに五感を開放して自然を体感できるのは悪くない。

「いつまでお泊まりですか」

「さあ、いつになるか、息子が迎えに来るまでいるんです。去年は三週間ぐらいでしたかねえ」

時計を持つのはやめたというお年寄りの話に共感して部屋に戻ると、テーブルの上にノートパソコンが置いてある。手持ち無沙汰が怖くて持つてきてしまったのだ。

体は「植物的人間」、頭は文明の機器頼み。

何だか妙に半端な年の取り方をしているなあ、と思う。

わがまま映評④

「少女の髪どめ」

満田康子

最近注目されているイランの映画である。

建築現場で働く若者ラティフは、お茶くみの仕事をしているが、いつもイライラして落ち着かない。ある日一緒に働いていたアフガン難民のナジヤフが転落事故で骨折し、その代わりにナジヤフの息子ラーマトが働きに来る。ラーマトは口も利けず、体も小さく、セメントの重い袋を担いで足場を登り損なう。現場監督は彼を憐れみラティフに仕事を交代するよう命じる。

おもしろくないラティフは、なにかとラーマトに意地悪するのだが、ラーマトの入れるお茶はおいしく昼食の用意も手際よくきれいで、同僚の評判は上々。怒りを募らせるラティフ。しかし、ある日、ラティフは台所から漏れてくる細い歌声に中を覗いて、ラティフが実は少女だということを知る。その時からラティフは変わる。いつも彼女を熱っぽい目で追い、陰になり日向になり助ける。すべて無言のままです。

難民の違法就労を調査している役人にラーマトが追われる。役人に体当たりしてラーマトを逃がしたラティフが釈放されて仕事場に戻ると、アフガン人は全員解雇されていた。傷心のラティ

フはラーマトが鳩にパンくずを与えていた屋上に行き、彼女が落とした髪どめをひろう。

難民キャンプを訪ねたラティフは、激流の川で石を運びあげる仕事をしているラーマトを発見する。彼女を重労働から救いたい一心で彼はあらゆる手段を講じるが、一七歳の青年に出来ることは知れている。ついに、彼は彼自身のIDカードを闇で売る。このお金のおかげでナジャフ一家はアフガンに帰国することになる。彼の善意が皮肉にも彼女との別れをもたらした。アフガンへの車に乗り込もうとするラーマトががごを落とし、雨の中で野菜を拾うのを助けるラティフ。一瞬二人の瞳が合うが、ラーマトはブルカを引き上げ身を翻して車に乗り込む。後には彼女が残した靴の跡。そこに雨が降り注ぐ。

ラティフ自身が貧しい労働者なのに、なけなしのお金をはたいて（最後には生きる手段であるIDカードまで売って）足を怪我しているナジャフに松葉杖を届けたり、お金を渡したりする。すべて心ひかれる少女を思つてのこと。それも少女にわからないようにそつと。最初から見返りを期待していない「無償の愛」である。ラティフにとってこれは初恋だろうが、少女の側にはそんな感情も生まれる余地はなく、終始無言である。

「素朴な愛」「純粹な愛」「無私の愛」を描いたと高い評価を得ている映画である。なんと現代人はこの種の愛に飢えていることか。「おばあちゃんの家」に引き続き、この映画でも、現代においては一方が無言あるいは口を利けない（多くは女の側がそうである）というようなデイスコミュニケーションの間にしか「無償の愛」は生じないという逆説を見る思いがする。

川の激しい流れに裾をとられて命を落としそうになる少女——このシーンが忘れられない。あの衣服では自由に働き行動することは絶対にできない。衣服が精神を規定するのは本当である。あの拘束的な衣服から解放され、そして口を利く女性の姿をイラン映画にみたいと思う。

（監督：マジッド・マジダイ／イラン／2001年）

May/16/2003

「大学の学バスの中で、男子学生と女子学生の話聞いて私のフェミニスト触角がピ、ピ、ピッ!

男子学生：おれっ、(食事を)作ってくれれば食べるけど、ないと食べないんだなあ～。

女子学生：ふ～ん (気のない返事)

男子学生：家にいると、母親がつくってくれるじゃん。だから、食べる。

女子学生：ふ～ん (気のない返事)

「この男の子は、この女の子に気のあるのだろうか？ 自分のために料理をつくってほしいと言っているのだろうか？ 付き合いたいのだろうか？」などと私は勝手に思いながら、「馬鹿だなあ。料理ができない男なんて今はもてないない！ 『オレが料理をつくるから今度遊びにおいでよ』と誘ったほうが可能性はずっと大だよ」と言いそうになってしまった。

I heard the conversation between a boy student and girl student on the bus of T University. My feminist antenna was quickly went up.

Boy: If someone cooks for me, I'll eat. But I won't eat if nobody cooks for me.

Girl: Aha (She didn't seem to be interested in his talk.)

Boy: When I'm at home, my mother cooks for me. So, I'll eat.

Girl: Aha

I was thinking, "Does this boy like this girl? Does he want her to cook for him? Does he want to date her?" I almost said, "Oh no. A boy who can't cook is not popular with girls now. Don't you know that? If a boy says, "I'll cook sometimes for you, so why don't you come to my place?", she might visit you. I'm sure that you will have a chance to date her."

June/05/2003

電車に乗っている、私のフェミニスト触角がゆ～ら、ゆ～ら。

男性A：たばこ、どのくらい吸うの？

男性B：2日に一箱ぐらいかな。最近、女で煙草を吸うの多いよな。

男性A：多い、多い。彼女が煙草を吸ってもいい？

男性B：おれは嫌だ。

男性A：おれも。自分が煙草吸うけど、女には吸ってほしくない。

ちょっと、ちょっと、それって勝手じゃないの！ そういうのを「ダブルスタンダード」って言うのよ。

While I was on the train, I felt my feminist antenna go up.

Man A: How much do you smoke?

Man B: A pack in two days. I see many young women who are smoking.

Man A: I often see them, too. Do you mind if your girlfriend smokes?

Man B: Yes, I do. I don't like a woman who smokes.

Man A: Neither do I.

Wait a minute! That's very selfish. We call this "a double standard."

●英語講座等の情報はHPをご覧ください→<http://www.alpha-net.ne.jp/users2/rei0225/>

英語で女性問題を語るための  
ワンポイント・レッスン【番外編④】

## 吉原令子

(大学講師 <http://www.alpha-net.ne.jp/users2/rei0225/>)

### 「偽善者に一言！」シリーズ

「男女平等」や「男女共同参画」などの言葉が流布している昨今、妙に「物わかりのいい」男性に会うことがあります。ところが、話をしているうちに、ポロが出てきて、実はジェンダー・バイアス (gender bias) ばりばりの人だったりします。「男は家族を食わせなくてはならない」とか、「娘にはやさしい子になってほしい」とか……男も女も自立することは大切だし、息子も娘もやさしい子に育つべきではないだろうか??

#### 【1】 [知っておくと便利な英語表現]

He's very hypocritical. (彼は偽善的よ。)

「偽善的な」はhypocriticalですが、「偽善者」はhypocriteです。ここでは、He's a hypocrite.と言ってもOK。比喩的な表現では「a wolf in lamb's skin」もあります。

#### 【2】 [さあ、実践!] (会話編)

ケイコとユリは同級生。男女平等とか言っておきながら、本当はジェンダーバイアスのある男性に一言、言いたい!

Keiko: What do you think of Mr. Kimura?

Yu ri: He's very hypocritical.

Keiko: Did you think so, too?

Yu ri: Oh, yeah. He told me that men and women should have equal rights.

But he told me that boys like girls who show their silly side.

Keiko: That's exactly what he said to me, too.

ケイコ: キムラさんのこと、どう思う?

ユリ: 彼は偽善的よ。

ケイコ: あなたもそう思った?

ユリ: もちろんよ。彼は、男と女は同等の権利をもつべきだと言っておきながら、男は馬鹿な面をもった女が好きなんだって言うの。

ケイコ: 私にも同じこと言ったわ。

- ・ equal rights 平等な権利
- ・ show one's silly side 馬鹿な面をみせる
- ・ That's exactly what he said to me. 彼は私にまったく同じ事を言ったわ。

## マネすることって 素敵なことなのに

松本一郎

まつもといちろう／キミ子方式・講師  
◎ご感想・ご意見おまちしています。  
ichiro-m@ka2.so-net.ne.jp



こないだ家にいたときに、小学校5年の長男と小学校2年の娘が「マネするな」「自分で考えたんだよ」「そんなことない。マネだ」と言い争っていた。

そのやりとりを横目で見ながら、

「どっちが先かなってどうでもいいじゃない」と思っていたが、お互いに主張を譲らず膠着状態になっていたので、「たのしそうなことや、いいことはマネすればいいじゃない。人のマネをしようとしても、人の顔が違うように、すべて同じにはマネできないのだから……」と言ってみたが、すぐには分かってもらえなかったようで、お互いプンプン怒っていた。

この（〇〇）のマネをしてはいけない」というのを、ヒトはどこから学んで来るのだろう。それとも本能的なことなのだろうか。

以前、読んだエッセイの中に、歌舞伎の師匠は自分の子どもに芸事を教えるときに、「模倣しなさい」と言い続けるそうで、それに対する「伝承される子どもの側の個性についてどう考えているか？」という質問に答えて、「模倣して模倣して、

でも演じる人が違えば、違ってくるのだから、それがその演者の個性になるんです」というのがあって、すごく感激したことがある。

ボクは絵を描くのが子どもの頃から苦手だった。人と同じことをしてはいけないという強迫観念が強かったし、絵を描くのは個性を大事にすること、その個性とは人とは違うことをすることなのだ、個性的な芸術家の両親との生活の中で学んだのかもしれない。幼い頃、二人と一緒に、粘土で犬か馬を想像して作っていた時に、二人のようにうまく作れなくて、ミジメな気持ちになった。二人は「子どもの作るモノは個性的で、のびのびしていいね」とほめてくれたが、なにを作ったのかわからないその作品を、ぐちゃぐちゃに丸めて泣きだした記憶がある。それ以来、個性的とはどういう



モノなかわからなかった。初めてキミ子方式の講座でモヤシを描いた時に、一人一本のモデルがあること、そのモヤシを描けばいいことに、なんとも言えない安心感を感じたし、講座も終わりに近づいて、一人ひとりの作品が出来、全員の作品を黒板に展示してもらった時に、自分の作品も含めてみんな違うけど、全員の絵がモヤシに見えることに感動した。今までは、少数の描ける人と多くの描けない人に分かれるから、出来なかった自分は、描かれた絵を見ることがしなかった。だから、自分もうまく描けて、その時に集まった人全員が出来ると、絵を見るその行為が、今までとは全く違う受け止め方になっていることに気づいて驚いた。

何年か前に、愛知県の教職員研修会に呼ばれて（モヤシ）の講座を

やらせてもらった。その講座が終わって、参加者数人と雑談をしていた時に、ひとりの先生が言った。「私、毎年、生徒たちに絵本を作らせているんです。どんな絵本でもいいからと、自由を大切にしてくるんですよ。ただ一つだけ約束があつて、『人のマネだけはしない』って言ってます」。そして、生徒たちみんな、素敵な絵本ができること、その絵本作りがいい授業になっていることを話してくれた。

ボクはその（人のマネはしない）という約束が気になった。（人の）マネって、その人というのは誰を指すのだろうか？ 絵本の歴史の中でマネをしてはダメだというのなら、なにも出来なくなってしまうんじゃないかと思つたから、「絵本というより、絵を描くことだけでも大変なことだし、マネをしようとしても、自分の目で見て、自分の手を動かして

何かを作れば、まったく同じものにはならないのだから、わざわざ言うことではないんじゃないですか」と言つてみた。その先生は、妙な顔をしていただけれど。

今は、マネることをしないで創造することは出来ないのではないかと、思っている。マネをしてみても、そのズレを自分のオリジナルと考えられたら、先の可能性も広がるのにと、思う。

キミ子方式で、4つの色を混ぜて、目の前のモデルに合わせて色を作るだけでも、一つとして同じ色が出来ない。それこそ人の数だけ色ができ、その人らしい個性的な作品になることは、たかさんの講座を通して体験してきた。だからこそ、人のいいところ、素敵なことをマネるといのが、広がるといいな」と思っている。

## 私がNPOで実現したい夢 (2)



### 新川てるえ

NPO法人Wink・理事長  
<http://www.npo-wink.org>

私がNPOで実現したい夢……  
養育費問題を通して全ての子ども達が親に愛される権利について考えて欲しい。そんな思いを込めて私の一〇年計画の初めの一歩が動き出しました。

四月二十六日、東京ウイメンズブラザホールで記念シンポジウムを開催しました。

第一部の調査報告発表では養育費を受けられない現状、強制執行までたどりつけないハードルなどをアンケート結果から発表しました。そしてウイנקの一〇年計画の発表（前号に記載）。ファーストステージの幕開けです。

当事者講演（ウイנק会員）は離婚時の公証人のアドバイスの甘さや弁護士への対応の悪さを指摘し、さらに養育親が努力しないと支払いが守れないのはおかしい！国で

義務化すべき！という迫力のある内容でした。

第二部では弁護士の本原富士子先生、NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむの赤石千衣子理事、ファザーズウエブサイト（離婚後に子に会えない親の会）の田中秀明さんをお招きし、ウイנק主席カウんセラーの青井海を含めてのパネルディスカッションを行いました。

今期国会で審議される民事強制執行法の改正により、養育費は、一度滞納があつた場合には、将来に渡って給料の差押えができるようになります。法務省のヒアリングレポートを参考に、内容の濃いお話をお届けしました。

こうして成功したイベントは、私にとっては本当に大きな充実感がありました、大切なことに気が

つくことができただと思いません。

ウイंकはNPOにするまでは、私が個人的に母子家庭共和国として運営していたので、やりたいことを思いつきでやってきました。伊豆の民宿でお泊り会をしたり、コンサートをしたり、とにかく楽しいことを選んで私の夢をひとつひとつを叶えてきた場所でした。

NPOにする数ヶ月前に、他団体から児童扶養手当削減反対運動と一緒にやろうとお誘いを受けたときに、正直いって法律なんか私が動いても変わらないし、やりたくないと思ひ、一瞬悩みました。悩んで、経験してみるのもいいかもと思ったので、表参道をピンクのカエルの被り物をして行進するという私流の反対運動パレードを実現しました。

パレードはNHKのニュースにもとりあげられ、院内集会を行ったり、署名活動をしたり、それはそれでやりがいもあったのですが、「児童扶養手当を削減しないで！私達母子家庭はこんなに苦しいの、助けて！」という主張は、弱さを売って情けを請うようで、正直言って私には共感できるものではありませんでした。

困っている仲間が沢山いる。助けてあげるためにアクションを起こす。それがNPOの使命だと思つて頑張り始めて半年後、気が付いたら楽しくなくても必死に仲間のためや団体のために働こうとしている自分がいまいました。

今回の養育費問題のシンポジウムは、我が子のためにもアクションを起こしたいと心から私が望んでいる事でした。そして調査が始

まり、調査冊子ができあがり、シンポジウムの実現。大変だったけど夢の再確認になりました。

自分がやりたいことから最初に実現したいという気持ちに戻ったら、本当に楽に仲間を巻き込んで夢に一步近づくことができました。

私のイベントはファーストステージが終わったばかり、これからも、私にしかできない方法でこの夢をみんなに伝えていきたい。そして、自分の夢が実現したら、次は誰かの夢も応援したいと思ひます。

「僕らには親が別れても愛される権利がある！」養育費実態調査報告シンポジウムビデオ（120分30000円・送料込み）発売中。HPよりメールでご注文いただくかFAX（04・7142・3233）にて承ります。

## げんちゃんのダイエット

第1回にさわやかに登場したげんちゃんこと、三浦厳さんに替わり、第2回目は妻のじゅんちゃんこと、三浦純子さんが登場。今後の展開は予測が付きませんが、ジェンダーフリーな暮らしを实践する三浦さんちから、楽しく、時に刺激的な?エッセイをお届けいただけます。お楽しみに!

### 三浦純子

みうら・じゅんこ/会社員

げんちゃんが私と結婚したのは、二三歳。「今思えば若気の至りだなあ」とよく言っています。

結婚前はスタイルも良く、ルックスもまーまーなミスガイでしたが、付き合いだしてからぶくぶく太り出し、その後バスの運転士になつてからは近所の自販機にジュースを買いに行くにも車に乗るような生活をして、九三kgまで巨大化しました。私の料理が美味しかったことが理由ではなく、夜中の勤務の帰りに○野屋の牛井やマ○ドナルドでハンバーガーを食べたりしていたことと、まったく運動もせずに残業に明け暮れていたことが原因だと思えます。

今思えば、なりふり構わず妻子を養うために一生懸命仕事に打ち込んでいたのでしょうか。ところが、ほんなことからジェンダーフリーと出会った私は「夫が変わらなければ、私は幸せにはなれない」と信じていました。家でゴロゴロする夫に向か

って「家事、育児は夫婦で協力してやるものだ!」と怒鳴りつけては、だんまりを決める夫に不満を感じていました。しかし、そのうち、夫を変えるよりも自分が変わる方が話も早いなあ、と思うようになり、仕事を始めました。子どもは一歳半。公立保育園に入れなかったため、駅前のマンションの一室を使った、とてもジェンダーに囚われた保育園に入園しました。青いスモックがイイと言う娘に「あらあら女の子はピンクでしょお」と言うところでした。

ある日、げんちゃんが作ったお弁当を子どもが持つて行った日のことです。「はいみなさん、今日もお母さんが作ってくれたお弁当を残さず食べましょうねえ」と言う先生に娘が「今日はお父さんが作ったお弁当だよ」と言うと、園中の先生が「え、見せて見せて」と集まってきたそうなのです。それからは「げんちゃんのお弁当がいいー!」だって、美

「味しいしい」などとおちよしまでくれるものですから、気をよくしたげんちゃんは子どものお弁当を作るようになり、その後、私の分は有償で作ってくれるようになりました。五〇〇円と吹っ掛けて来たので、三〇〇円まで値切りました。

そうやって料理の道を歩み始めた頃、会社で仲良くしていたおじさんが定年前に病気で亡くなってしまったのです。その方は、暴飲暴食から病気になった訳ではなく、人生をまっとうする生き方だったようですが、それを機に、何やら人生について考えるようになったようで、毎日帰って来ては今日あった事をしゃべりまくったり（たいがいは会社の愚痴ですが）、私が聞かないと、TVのニュースを見ては「ほお、そんなことがあってん？」などとTVに向かって話しかけていた人が、物静かになっ

ている時期がありました。  
が、夫を変えるのは止めた私は

自分の人生をクリエイトするのに一生懸命だったので、あまり気にもとめずにおりました。

その後、ダイエットをすると言いだし、ダイエット本を買って来ました。有償弁当もお肉の油炒めがメインデイツシュだったのから、お肉をゆでたものに変ったりしました。そして、自慢げに「じゅんちゃん、お米は何の栄養があるか知ってる？」と聞くので、何バカなこと言ってるんだかと思いつつ、「炭水化物に決まってるじゃん」と答えると、たいそうびつくりした顔をして、「何で料理もしないじゅんちゃん知ってる訳？」と聞かれたので、「そんなの、小学校の家庭科で習ったじゃん」と面倒臭げに答えると「あー、おれ家庭科習ってへんのやあ」と言うではありませんか。確かに、男子は技術を習っていました。私はその時に、「あー、家庭科を習っていない」ということは、栄養素を知らないど

ころか、自分の健康についても考えることなく生活してしまうことにもなるんだあ」と、初めて「家庭科の男女共修の意味」を理解した感じになりました。

その後、げんちゃんは栄養のパラメータを考へながら運動も始め、みごと二〇kgの減量に成功しました。痩せるとおしりも軽くなるのか、「じゅんちゃん、コーヒー飲む？」なんてイイながらジャンプして台所に向かっ

ていく感じでした。  
こうして、健康で楽しく暮らしたいと気づいたげんちゃんは、タバコも止め、だんだんとエコライフへ進んでいるように思います。タバコを吸ったと思って始めた定期積み金も三年の満期を経て二回目に入っています。偉いねえ。

しかし、家庭科を習ったはずの私の体重が増え続けているのは…。やっぱり、習えばいいって事じゃなく習った事を実践しないとね！ 教訓。

こだわらない、にこだわって

## 二見れい子

### 不安になった 〈3〉

「エミリーは怠け者なんじゃないやなくて……、……なにもしてなくても不安にならないの」

コズミック・デブリ作、宇多田ヒカル訳の絵本「エミリー・ザ・ストレンジ」の中の一節だ。友人宅でたまたま本を見せてもらって、ページをめくっていたら、このセリフが目飛び込んできた。

そう、そうなのかも。ひよっとして、ある人が何もしてない（何もしていないように外から見える、と言った方が適切かな）ことに不安になるのは、本人よりもむしろ周りの人

間なのかも。だって当人は自分の中の何かに忙しくて何かをするどころではないのだろうから。そんなとき、周りが心配になって、おろおろし始めると「迷惑をかけている、このままじゃいけない」と外から見える自分の姿にまで気を使わないといけなくなつて、内にも外にも落ち着けなくなる。そんなところでタイミングよく「そう、そうでしょう？ やつぱりあなた自身も不安だったんでしよう？ 何とかしたいと思ってるんでしよう？」なんて笑うセールスマン風に耳元で囁かれたら……。

「不安」とは、気持ちが悪く不安定で落ち着かない状態を言うのだろうが、同じ「落ち着かない」でも、ウキウキして心がはやるという意味ではなくて、ザワザワして雲が垂れ込めた灰色の状態をさす方が多い。そう、気持ちが悪く不安定なことが問題なんじゃないなくて、私たちの不安感が何かしらの恐怖心につながっていることが

問題なのだ。恐怖心が満ちてくると、警戒心が育ってくる。恐怖心と警戒心で一杯なのに、それに無自覚な大人が多くて、自分の中の不安の矛先を、微妙な形で他人に向けてくるから、世の中やっかいなのだ。

心が不安なときは、頭が忙しく働いている。「あれをしなきゃ、これもやっけない。これでいいんだろうか」一つのことをやりながらも、そこになかなか心を集中できないで、次になければならないことや周りのことが気になつてしょうがない。

こうして私たちの周りに蔓延している、この「不安症」の影響から極力身を守るにはどうしたらいいだろう。不安になると目の前の事に何も手がつかなくなる、ってことは逆に言えば、目の前の事に心が上の空であるということは、不安が入り込む隙間だらけということ。テレビのワイドショーから入るセンセーショナルな報道も、ご近所の噂話も、電車

のつり革広告のキャッチコピーも、何でもかんでも忍び寄れる隙間だらけ。こうした心の虫食い状態を避けるために、私がアレコレ考えて辿り着いた結論は、新鮮味に欠けるけれど、やっぱり「今を十分に愉しむこと」これにつきる。

ジョン・レノンが愛息シヨーンに捧げた唄の歌詞に「Life is what happens to you while you're busy making other plans」という一節がある。先のことをあれこれ思い巡らして心忙しくしているその最中に、目の前で現実起きてくる諸々の日常、これこそが人生ってものなんだよ、と語りかける父親ジョンの言葉は印象的だ。そしてこれは、大人にも子どもにも共通する現実なのだろう。ただ、「先のこと」をワクワクしながら楽しみにして今を豊かに彩れるのか、先の不安と強迫観念で今この時を息苦しくしてしまうのか、その辺りが「子どもの世界」と「大人の世

界」の分かれ目になっているような気がする。

子どもの頃の私は、いつも「子どもの世界」と「大人の世界」の狭間に立っていた。時を忘れて夢中で遊び耽ったというより、冷めた視線で斜めから、両親の姿や学校で起きる出来事を他人事のように眺めていたという記憶が強い。成長してからは、この「子どもの世界」がいっそう小さくなって、おかげで職場では機転を利かせて効率よく仕事をこなすことができた。時間の配分と、周りの人間関係をスムーズに保つことにかけては、誰よりもうまくやれると自負していた。

でも、その一方で、物事に優先順位をつけてたくさんの事を後回しにする術を身に付けていた。好きな事に集中するエネルギーも枯渇寸前になっていた。仕事には集中できて、自分の生活の基盤になっている小さ

な日常の一つひとつを軽んじてきた。そして、気づかない内に、すべてに上の空になっていたのだ。

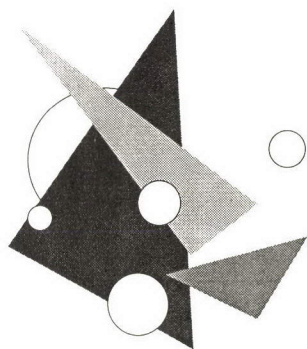
私がそうだったように、子ども時代に「子どもの世界」に安住できない人だってたくさんいる。ただ、不安症の子どもは自分のことで精一杯だが、不安症の大人は、自分の心に蓋をして他人の世界に干渉したがる。自分より弱い立場の子どもたちの生活ぶりを嘆いては「放っておけない」と騒ぎ立てるのもこのタイプ。

どうせ詩くなら不安の種ではなくて、「愉快」の種を蒔いていきたい。自分にとって心地よい土壌を広げていきたい。目の前の小さな一つひとつに集中することで、そこに散らばっているヒカリモノを探しあてて自分のものになりたい。大人びた子どもだった私だけれど、不安材料で一杯の時代だけれど、でも、だからこそ、今このときが正念場なのだ。

## ファストな人にスローを伝える

竹信三恵子

たけのぶ・みえこ 新聞記者



「スローワーク」の言い出しっぺ、ともいえる二神能基さんが代表を務める「ニュースタート事務局」は、非営利組織（NPO）だった。しかし、NPOではなく起業で、スローな働き方と生活を広める職場づくりに踏み出した人もいる。東京都内の川沿いにカフェをつくり、南米エクアドルの人たちがつくった有機・無農薬の豆を使ったコーヒーや無農薬料理を出し、特産のサイザル麻でつくった手工芸雑貨などを売る。そんな店を目指して有限会社「スローウオーターカフェ」を立ち上げた藤岡亜美さん（二三）だ。

### 違う人にも伝えたい

藤岡さんは、大学の国際学部で文化人類学を学んで、02年春、卒業した。大学では、「スローなライフスタイル」を提唱する辻信一教授の「文化とエコロジー」についてのゼミに加わり、ライフスタイルの転換を提唱するNPO「ナマケモノ倶楽部」のメンバーとして活動。メンバーで経営する「カフェスロー」のために、エクアドルからの無農薬コーヒーや手工芸品の輸入などを手がけてきた。

これを発展させ、卒業後は起業で身を立てようと思



い立った藤岡さんは、02年、まず、社会問題をビジネスで解決しようとする社会的起業家を育てるビジネスコンペに応募して優秀賞を獲得。今年三月には、東京都主催の学生起業家選手権でも優秀賞をとった。

これらの経歴を事前にニコミの記事などで読んだときは、実はあまりインパクトを感じなかった。豊かな時代に育った若い人たちが、強くなった円を利用して海外をのぞきに出ていく。そして途上国の人々の暮らしに同情またはあこがれを抱き、日本社会が抱える問題点からは目をそらしたまま「国際協力」とやらに走る——。それって、オヤジがすべてを握って一歩も動かない今の日本社会の権力関係と正面から向き合うことを避けているだけじゃないのか、と、お局風の意地の悪い見方をしてしまいがちだったからだ。

しかし、こうした疑いの気持ちは、「なぜ、NPOじゃなくて起業なのか」という問いに対する藤岡さんの答えを聞いて、消えた。

「NPOの意味は今もあると思う。でも、『問題意識のある人』しか来ないのが限界、とも感じた。NPOとかいうと引いてしまう友人もいる。乱開発や、忙しすぎる生活の見直しを本当にしてほしいのは、むしろ

開発や経済活動に関わり、忙しくめいっばい働いているビジネスマンとか、環境問題には何の関心もない人とかでしょう。NPOって聞いただけで、そういう人は来なくなる。だから、問題意識から入るんじゃないから来るといって人を集めたかった。自分たちとは異質な人にこそ来てほしかった」というのだ。

主義や思想は、それだけでは実は異質の人たちを遠ざけ、縛ってしまいがちだ。モノやカネはこうした異質の人々の交流をさりげなく促す面がある。男に従うのが美德、といった思想で家庭や人間関係にがんじがらめになつてきた女性が、労働市場でお金を稼ぎ始めたときの解放感。ときには無慈悲な存在でもある貨幣が、同時に併せ持つ性や思想や身分を選ばないやさしさ。藤岡さんの言葉に触発されて、こうしたさまざまな思いが私の中に浮かんで消えた。

「コーヒーや食べ物売る商売のどこがスローなの?」。こんな質問もしてみた。その答えにも、思わずうなずいてしまった。すなわち、

① たくさんの方が、本当はもっとゆつたりした自然な生活がしたいと思っている。でも、お金がなければ生きていけないから効率一辺倒の企業に就職する。こ

ここで、職業生活とスローへの願望が分断されてしまい、「スローっていいな」と思っているだけで、行動にながらない。だから、食べられて、しかもスローな働く場を自力でつくりたいと思った。

② 既成の会社に入って、いきなり給料をもらえば、確かに早く、ファストに食べられるようにはなる。そうではなく、自分の考え方やライフスタイルになつた働き方を自分でゆつくり、スローにつくっていった方が、目的になつたものがつくれる。

③ 自分個人にはさほど能力があるわけじゃない。でも、それはマイナスじゃない。能力がないから他人の助けを借りる必要がある。だから他人とつながれる。能力がないから他人と出会える。能力がないことを嘆かない組織。それがスローな組織だ。

## エクアドル体験が背景に

こうした発想をつくつたのは、大学時代、ゼミのフィールドワークで三カ月滞在したエクアドルでの体験だった。

ダイビング好きのおじから機材を借りて、高校生のころは、よく伊豆の漁村などに潜りに出かけた。海の

中で見たままの魚が、宿泊先の食卓に並ぶ。東京育ちで食べるものの元の形を見る機会の少なかった少女にとつては、感動だった。自然と生活のつながりが見える面白さを発見した、ということだろうか。生活の源流が見えるところへ行きたいという気持ちが、旅行会社に就職したいという気持ちへと発展していった。

しかし、エクアドルのフィン村という山村で、コーヒー豆をつくる村人たちと接するうちに、考えが変わつた。村人に案内してもらって、森へ出かける。自分がガイド役だったらとてもみつけられなかったような美しい場所にあちこちで出会った。自身が旅行を企画する業者になるより、こうした地元の人たちに出会えるきっかけとなる場所を日本で作くり、この人たちに案内してもらつた方がずっといい。そういう場所を日本につくることを仕事にしよう、と思いつつた。

もうひとつ、藤岡さんを驚かせたことがある。

フィン村は鉱物資源が豊富な地域でもあった。先進国の多国籍企業が、鉱山開発のための次々やってくる。九二年には、日系企業の鉱山開発で川に鉱物が流れ出て、その水を飲んだ家畜が死んだり、子供が皮膚病にかかったりした。村人が集まり、開発に反対の決議もした。企業も政府も言い分を聞いてくれず、ついに村

人は、試掘のためにつくられたキャンプを、人がいないときを狙って焼き払う行動に出た。

藤岡さんの通った高校は、国会の裏にあった。抗議デモや集会の声や物音が聞こえてくるのはしょっちゅうだったが、藤岡さんには空疎に聞こえた。「大事なこともかもしれないけど、何か、かっこ悪い」という感覚である。自分の住んでいる地域の川だって、異物が流れ込んでも、たいした抗議行動はないだろう。

でも、フィンの人たちはここまでやった。それは、生活水であり、本当に生存にかかわる問題だったからだ。開発を拒否したために、政府は学校も病院もつくってくれない。生活は自給自足に近い形でも、公共施設の設定には現金がいる。現金作りに乗り出したのが、それまで「アメひとつ買うにも夫の許可が必要」といわれるほど発言力が弱かった村の女性たちだった。

女性たちは麻をすき、森に生えている植物を使って染色し、バックやベルトなどの雑貨をつくる組合をつくった。これをもって現金にする。藤岡さんらは、水筒を携帯して、ペットボトルを使わない運動を日本で進めていた。これと連動し、水筒を肩にかけるホルダーを共同開発した。遠い教科書の出来事だった「水俣病」などの公害問題が、ぐっと身近に感じられるようになって

た。スーパード売っていた切り身が、海の中を泳いでいる立派な魚だということを発見したように、環境問題が、目の前の自分の問題としてつながったのだ。

### 持続可能な経営へ

こうした課題を解決するために提案した有限会社は、藤岡さんを代表に、大学の後輩など女性3人が参加した。ゼミの辻教授も役員の一人名となり、三百万円の出資金を集めた。

NPO活動を通じてわかったことは、速さと効率にのらないものには、きわめて不利な仕組みにできているということだった。NPO時代に大学の生協にエクアドルのコーヒーを入れようとしたことがある。大資本の企業は店舗用のコーヒーメーカーを導入することで生協の仕組みに対応できたが、小資本のNPOではそこまで手が回らなかった。「カフェスロー」で使うたくさんのマグカップを買いに出かけたが、本当に安くしてもらうときは、店頭買いではなく、企業対企業のオフィス内の商談で決めていることも知った。

こうした不利を解決するには、別の方法によって持続可能な経営をつくっていくしかない。計画では、店

の座席数は三十席とし、売上高は金・土・日の客の入りが多いときで七十人、十五万円。ピークでない月・火・木で八万円と見込み、月に二百八十四万円、年で三千四百八円。○三年二月から店が開く十月か十一月までは、店舗の収入がないため、料理を宅配するケータリングやホームページを利用した無店舗販売、会員への小包の販売を拡大していく。

「食べていくための仕事」を目指したからには、賃金は確保しなければならない。とりあえずは、人件費として、参加した四人に三万円ずつの月収と交通費を計上。滑り出すまでは、一人週三日半勤務のワークシェア形式でシフトを組み、生計をたてるため、残りの日々はそれぞれが独自にアルバイトでまかなう。藤岡さんは、実地訓練も兼ねて、コーヒー焙煎業者の契約社員として働いている。

月一回の小包の発送には、それぞれに手書きの手紙もつけるので人手がかかる。この部分は「アミーゴ（スペイン語で友人）」と名づけた無償のボランティアに頼り、集まってくれた人にコーヒーとケーキを出してお返しする。このお茶会が情報交換の場であり、また、コーヒーなどの味についての意見を聞く商品モニターの場でもある。

必要なコストを「証券化」して賛同者には一口五万円で証券を買ってもらい、配当としてコーヒー豆や雑貨などを年一回送る。これなら投資に関心のある人も参加してもらえるかもしれない。いきなり「環境問題！」ではなく、それぞれが自分の楽しみめる方法で参加し、たとえばケーキの試食会、たとえば、コーヒー豆や雑貨の宅配、といった現物支給を取り入れて、支払方法を多様化していく。この作戦で、○三年十二月には純利益五十五万円を目指している。

当面の懸案は、店舗の場所だ。学生街なら店は出しやすいかもしれないが、異質の人に来てもらうという狙いから外れてしまう。次に希望するのが商店街で、もっともわかってもらいたい人である「普通の会社員」に来てもらうには、オフィス街に店を置きたい。だが、家賃の安いビルや新しいビルはオフィスビル建設ラッシュによる過剰状態で空き室が多く、客がない恐れがある。そうでないビルは家賃が高い。家賃の上限は月三十万円。店舗さがしはまだ、続きそうだ。

※参加してみたい人は、電話03-5625-4194のスロウウォーターカフェかホームページ <http://www.slowwatercafe.com>。

## 読者の独り言

東京 井坂 晶紀

四年くらい前になるのでしょうか。  
 蕨森さんの連載が目当てでWeの年間購読を始めてから、今まで継続しています。いつの間にかご当人のコラムはなくなってしまう、個人的にはとてもWeに「裏切られた」感が強かった、というのが正直なところでしたが、それでも、そんなミール根性ではこの雑誌の読者など務まらない、との非常に勝手な思い込みで解約を思いとどまることにしてから、さらに数年の月日がたちました。  
 今ではごく当たり前に思う「それよかったんだ」という気持ちと「なにだらだらお義理だててんの」という自己卑下との天秤は、前者のおもりのほうが後者より比べものにならないくらい重くなってから久しいのですが、この天秤の傾きが気にならなくなってきたらしばらくすると、今度は「ただ黙ってモニターするだけか」という声に悩まされるようになりまし。私は自分のこの気持ちに「モト取れワンワン」根性に基づ

くものであると位置づけます。

一九七三年生まれの私が学校で習った家庭科とは、今振り返ると何だっただけでしょう。それは、何気なく食べているように作ると意外に骨の折れる調理であり、すぐ真似できそうでなかなか上手に仕上がらない裁縫であり、決して触れられることなく終わってしまった教科書の最後のページでした。みんながみんな、やってみるとどことなく安心できてしかも夢中になれるようなことばかりであった私にとって、それら一切のことが世間からはどうでもいいことであるかのような扱いをされていることに薄々気づいたときは、自分の無力さを感じ悲しくなりました。  
 今でこそ、日常茶飯を實踐する、という意味での教科は「技術」だったのであり、将来を開くための人生設計の基本を自分で考えていく、という意味で「教養」だったのであり、ありとあらゆる「豊かさ」をあの教科は含んでいたのであろうとつくづく思うのですが、同時に「なんであんな勿体ない教え方をされちゃったのかしら」とも思いたくなる気

持ちは否めません。

煮干から出汁を取った味噌汁とわざわざ鍋を使ってガスで炊いた白米は確かにとても美味しかったけれど、ではそこまで時間をかけて作るご飯がなぜインスタントよりも価値があるのか、という疑問や、それを共働きであるウチで毎日やるうとしたら一体何日もつだらうかという不安、そういった直接生活に関わるテーマへの答えを子供ながらに結論づけるに至らなかったのは、当時のカリキュラムが私にもたらしていた一種の弊害なのではないかと思えます。

現在のカリキュラムがどのようになっているのか、私はよく知りませんが、というとうと無責任に聞こえますが、だからこそ、私にとってこの雑誌は現場の声をつぶさに反映しているに違いない媒体として貴重であると素直に思えるし、実際にそうでしょう。私なりに、一個人が社会に対する「恩返し」としてどれだけのができるのか、近頃とみに考えます。そして、それ自体はおそらくとても限られているものであろうということも。

でも、だれかと手をつなぐことができたら、それは1足す1じゃない。2どころか何倍もの力になります。ただ「だれかに心を開く」だけ。文字にそれかとともに歩く」だけ。文字にするだけでも簡単にできそうですが、私自身、思いもよらないような形で普段から感情を殺しがちなこともあり、たとえば性格的な弱みをさらけだしたり、金銭面のみならず精神面でもかえって痛手を受けるかもしれないことでも人助けする、といった行動はなかなか素直にとれないと思うのです。

だからと言って、敢えて清貧の生活をしなければならぬなどとは思いません。今後とも自分のペースで暮らせるだけの収入と、少し矛盾するかもしれませんが、それ相応のキヤリアをいつも目指したいとは思っています。何に対しても積極的な自分があるということ、それだけでとても楽しいこと。あくまで個人的な指標としてですが、私がどう生きたのかを振りかえったとき、心をいちはん煩わせたことと自分にとってかけがえのないものがカネになったら、そのときは私が私でなくなると

きだ、と普段から注意しています。カネについて一切考えないということではなくて、程よい距離を持つてカネと付きあうという意味です。

というわけで、少ないながら毎年気持ちばかりの寄附を差し上げる理由につき、少しばかり「はーん、なるほどね」と言っていただけのことを期待しつつ、Weの次号をのんびりお待ちしております。

※ ※ ※

選挙スタイルもめぐみ流

くハッピーネットが広がった!

浜松 鈴木めぐみ  
(市会議員)

参加型の選挙をめざして

くたくさんの方々に支えられて

遅くなったけど、選挙の報告です。

597ヶ所ものポスター貼り、選挙カーや私が乗る車の運転、電話かけ、選挙カーに乗り手を振り道行く人に声をかける、公選はがき書き、めぐみと一緒に街中を歩くことなど、多くの方々が選挙に関わってくださ

た。

また「子どもが小さいけど、手伝いたい」「働いていて、直接事務所に行けないけど、何かしたい!」そんな方々がカンパに2500円玉握りしめて、事務所に来てくださったり、手作りですきを作ってくださいたり、りとして、それぞれができる方法で、参加してくださった。たくさんの方々に支えられて、HAPPYな選挙だったよ。ありがとう!

選挙に関わったことで、政治が自分自身の問題となり、身近な問題とすることもあればいいなあ。

そして、このハッピーネットの広がりが、これから浜松をよくする原動力となっていくだろうと私は期待しているんだ。

連呼をしない選挙力一

自分の子どもが小さかった時のことだ。ぐずってなかなかお昼寝しない息子がようやく眠ったとほっと一安心していたところ、「議員候補の○○でございます。○○、○○をよろしくお願いします」という大音量の連呼の声で、子どもが泣いて起きて

きた。こっちの方が泣きたいぐらいだ。「何が市民のために働きます、だ。連呼する議員には絶対入れないぞ」とひとり団地の一室で叫んでいた。

前回の4年前の選挙で、自分が立候補とすることとなり、自分の体験から絶対連呼しない！したくない！と宣言した。

その時は、「いいねえ」という声よりも、「連呼しなくちゃ名前覚えてもらえない」という心配の声、「うちの地域に来てくれないじゃないか」という苦情の声が多く、何度もめげそうになった。でも、貫いた。

今回は、胸をはって「お昼寝中の赤ちゃんが起きてしまった」「夜勤あけのお父さんが眠れない」「病気で寝ている方が休めない」という市民の声は、ごく一部の声だから、無視していいですか？と、逆に有権者に訴えた。

ひとりひとりの声を大事にする私の政治姿勢をアピールできたかなあ。

### 三三集云

私自身、選挙カーに乗ったのは、一日目の五分だけ。後は少数数のミ

ニ集会中心。それも私だけが一方的に話すのではなく、みんなからの質問を受けたたり、考えを聞いたりする対話スタイル。多くの声を聞き、宿題いっぱいいただいた。頑張るぞお。

「めぐみ、チャチャチャ！」で  
街中歩く

毎日夕方は、中心部の商店街の辻に立ち、マイクを握った。最終日の夕方からは、駆け付けてくれたみなさんとともに辻ごとに立ち止まっては演説をし、辻から辻までは「めぐみ、チャチャチャ！」と手拍子をしていながら歩いた。初めて会った人まで一緒に「めぐみ、チャチャチャ！」と手拍子をしてくれて、感激。ホントに楽しい選挙だった。

議会の様子や考えていることをタイムリーにお伝えする「めぐみ●メールニュース」を発行しています。お申し込みは、お名前とメールアドレスと住所（市町村名）を書いて、[megumi@megumi-happy.net](mailto:megumi@megumi-happy.net)に送ってください。ホームページ

<http://www.megumi-happy.net/>

## ●フェミックス電話相談 TEL03-3410-9937

電話による相談をします。

心理的な相談だけでなく、講座企画などの相談、情報提供をご希望の方もご利用下さい。

※時間帯：月～金（土日祝日を除く）10：30～18：00

前もって予約していただければ、これ以外の時間帯でもご利用可能です。

※利用料金：30分以内は3000円 30分～60分まで6000円

相談終了後、振込用紙をお送りしますので、1週間以内にお振込をお願いします。

◎お問い合わせ・お申し込みは下記までどうぞ

東京都世田谷区池尻3-2-3-703 (〒154-0001)

TEL/ FAX 03-3424-3603

E-mail [femix@mail2.alpha-net.ne.jp](mailto:femix@mail2.alpha-net.ne.jp)

Femix  
フェミックス

ホームページ：<http://www3.alpha-net.ne.jp/users/femix>

郵便振替 00130-7-754314 みずほ銀行 池尻大橋出張所 1501277

東急新玉川線（渋谷より1駅3分）池尻大橋駅下車西口より徒歩1分

## 編集・後記

●フェミのメッセージは「フツー」の女の子には届きにくい。とくに性教育は。池上千寿子さんと「ぶれいす東京」の活動のすばらしさは当事者のエンパワメントを大切に、脅しは絶対使わず、メッセージを受ける側のニーズを徹底的に調べ、情報が必要な人に届くための仕掛けをあらゆる角度から作ろうとしていること。その柔軟さ、やさしさに学びたい。

永易さん（33頁参照）は太田次郎社の月刊誌「ひと」の元編集スタッフであり、上野千鶴子の『サヨナラ、学校化社会』なども手がけた若手の名編集者。『にじ』はその彼が心を込めてつくった不思議な魅力に満ちた季刊誌です。「正しい」何かをめざすと必ずそこから排除されるものがつくられるという永易さんの言葉は「寛容」や「多様性」を考えるとときの鍵になるのではないかと思います。

なお、HIVに関して、HIV感染者・患者のためのサポートグループである「ライフ・エイズ・プロジェクト」が発行する「LAP通信」は最新の情報と問題提起が満載の貴重な冊子です（<http://www.lap.jp/>）。

また、岡村聡子さんたちのグループ

「ピッコ」による「親子で性教育はじめの一步」（午前が大人、午後が親子を対象にしたワーク）が八月二四日（日）に横浜女性フォーラムで開催されます。詳細はフェミックスまで。（稲邑）

●『にじ』を見るたび、あー私もこういう編集力がほしい、とないものねだりです。思ってしまう私であった。

大学に入って、私は十人ほどの小さな女子寮で暮らした（親からすれば、これが道を踏み外す始まりとでも言うだろうが…）。いろんな人が出入りし、いろんな話題で盛り上がり、田舎からぼっと出た私には、毎日が刺激的だった。東京と違って八〇年代にもまだ学生運動とリブの名残があり、フェミニズムという言葉にもここで初めて出会った。今思えば日々CCR、グループワークをしていたようなものだった。そして「これはしっかりと読んどき」と手渡されたのが「ウーマンズ・ボデイ」（鎌倉書房、1988）だった。私はこの本で月経の仕組みを知り、性器の名前と構造を知り、マスターベーションを知った。衝撃だった。そうか、自分の体はこうなっているのか、こんなサイクルになっっているのか、なーんも知らなかった、と感動の次には怒りが沸いて

きたのを覚えている。私が自尊感情を取り戻す、最初のきっかけがこの本だったと思う。そしてこの本は池上さんたちの努力の賜だと後で知った。感謝である。そして、避妊はぜったい！コンドームがなかったらいつでも貸してあげるから、気をつけなあかんで〜と、繰り返し教えてもらった。なんとよき先輩たち？

理科室で女子だけ集めて月経のスライドを見たのが、私の唯一の性教育体験だった。今、中二になった娘がこれまで学校で受けた性教育も、残念ながら大した差はない。竹内さんの学校にやりたいくらいだ。小貫さんのワークを受けたのもう十年前のこと、嘘のようだが、小貫さんやメグ・ヒックリングさんのワークをきっかけに、子どもたちと性や体について繰り返し話してきたことは（思春期の今は聞く耳を持たないが…）どこかに残っているのではないかと期待するのだが。そうそう、小貫さんに教えてもらわなかったら、「ペニス皮をむいてちゃんと洗うんだよ」「夢精があったら何も言わなくていいから自分でパンツを洗って洗濯機に入れておいてね」なーんて、息子にアドバイスできなかつただろうから、これも感謝である。先日、NHKの



エイズの特集番組を息子と二人で見ながら、「ちゃんと Condom つけなきゃだめなんだよ！ 誰が悪いっていうんじやなくて、感染したり、感染させたりしちゃうんだから。使い方を教えてあげるから、うーんまだ早いか…」とかブツブツ言っていたら、「小学生でそんなこと言われるのオレだけだし、みんな知らないし」と半分怒っていた？ でも、こういういい番組があると会話のきっかけになっていいなと思った。(中村)

●ライフ・ステージによって性意識もずいぶんと変わってくるような気がする。更年期にさしかかっている今と性活動が活発な時期の自分とは性についての感じ方が違う。これを枯れてきたというのだろうか。まだ、そう思うのは早いよねという気持ちもどこかにはあるのだけれど、活字や映像から想像力を刺激されたり、セクシャルな夢を見る方が自分にとって快感が深い。これは自分なりの安全な方法を見つけたということなのだろうか？ 家庭でも学校でも性についてネガティブなメッセージしか受け取れなかったつけがまわっているのか、どこかで生身の身体を通した関わりに臆病になるのはやはり、セックスがどこか死とつながっている

という意識があるせいなのかよくわからない。今月号の We のタイトルとは裏腹に無意識の「セックスフォビア」が呼び覚まされて落ち込みモードになってしまった。(大沼)

●最近、易の弟子に男性が増え、そのうちの一人に手相見のプロがいて、易の講座が終わると、他の受講生たちが「私の手相見て下さい」なんて、その人に群がったりして、「オイオイ」とは思うけれど、私も見てもらった。まず、「いい手相です。女の人には珍しい」と言われた。複雑。さらに「六〇歳になったら恋愛しますよ」と言われてビックリ。それ以来、私は、「フェミックスのデユラス」だともも言ってくれないから自分で言っている。そのときに備えて、瞬時に自己決定できるように、意思と感情と思考を鍛えておかなくちや。(河村)

●先月号でもお知らせしましたが、カナダから We n d o オインストラクターのキユステイを呼んで、初心者向けの二日間の We n d o (護身術) ワークショップを開催します。八月二十五日(月)、二十六日(火)、東京・代々木のオリンピック記念青少年総合センターで。初めての方はもちろん、これまで講座を受けた

方も忘れない&スキルアップのために、ぜひ参加して下さい。二十名限定、まだ若干空きがあります。お申し込みはフェミックスまで。

●「We」をプレゼントしませんか！ 読者限定のギフト割引として年間購読を8掛け(六千円)にします。都内近県で「We」やフェミックスの単行本を販売(紹介)できる集会がありましたら情報をお寄せください。よろしくお願ひします。(編集部)

## くらしと教育をつなぐWe

2003年7月号 (114号/vol.12 No.4)

2003年7月1日発行

定価……680円 (本体価格648円+税)  
(年間購読料7500円/送料共)

発行……femix・フェミックス

〒154-0001 東京都世田谷区池尻3-2-3-703

tel & fax 03-3424-3603

E-mail: femix@mail2.alpha-net.ne.jp

http://www3.alpha-net.ne.jp/users/femix/

みずほ銀行 池尻大橋出張所 (普) 1501277

郵便振替 00130-7-754314 (有)フェミックス

編集……稲邑恭子・中村泰子

装幀……川口民子 イラスト……中村 桂

印刷……(有)イー・エム・ピー

●本誌掲載記事の無断転載、複製をお断りします。

購読ご希望の方は、編集部に直接お申し込み下さい。電話、ファックス、E-mail、あるいは郵便振替で○号から購読希望と明記して年間購読料7500円をお振り込み下さい。

- 定価 680円 (本体価格648円+税)
- 年間購読料 7500円 (10冊/送料共)
- 郵便振替00130-7-754314フェミックス

「くらしと教育をつなぐWe」は、もともと家庭科の男女共修の実現のためにスタートした月刊誌ですが、従来の家庭科の枠を超えて、女と男が対等に生きることができる社会の実現のために必要な、さまざまなテーマを取り上げ、特に教育現場において性教育やいじめ防止教育なども包括した「ジェンダーフリー教育」の実現と、「男女共同参画社会」実現のための具体的なノウハウを追求します。

#### ■2003年度特集

4月号 ジェンダーフリーを阻む男の病/5月号 みんなのフェミニズム/6月号 スキルズ・フォア・ライフ生きる力

#### ■連載

スローワークの経済学 竹信三恵子◇女が歳をとるといこと 木村栄◇わがまま映評 満田康子◇英語で女性問題を語るためのワンポイント・レッスン 吉原令子◇乱読大魔王日記 冠野文◇過去を振り返らない/先を考えない 松本一郎◇日本一のNPOを目指して 新川てるえ◇妻が変われば夫も変わる 三浦厳・純子◇こだわらない、にこだわって 二見れい子

#### ■女と男の家庭科新時代

授業実践/風がかわる匂いかわる◇新・オホーツクの潮風荒く 江口凡太郎◇曲がり角の家庭科 梶原公子◇カトーさんの授業スケッチ 加藤昭仁◇食の歳時記 入江一恵・坂本 薫

◎バックナンバーも販売しています。バックナンバーのリストをご希望の方はお問い合わせください。

#### ■2002年度特集

4月号 家族をひらく/5月号 ジェンダーと人権/6月号 力の再定義/7月号 ワークシェアリングの可能性を探る/8・9月号 からだが一番!ワーク&ヘルスのバランス/10月号 女性への暴力被害者支援とシスターフード/11月号 生き延びるための知恵—お金と労働/12月号 ジェンダーと婦人科医療/2003年1月号 ジェンダーと教育/2/3月号 ドメスティック・バイオレンス

#### ■Weの置いてある書店■

東京 ●表参道—クレヨンハウス  
●東京ウィメンズプラザ内—パッチワーク  
●新宿2丁目—模索舎  
●西荻窪—ナワ・プラサード

大阪 ●ウィメンズブックストアゆう

(書店でご注文の場合は「地方小出版流通センター取扱い」としてお申し込み下さい。)

くらしと教育をつなぐWe 読者募集

フェミックス tel & fax 03・3424・3603

〒154-0001 東京都世田谷区池尻3-2-3サンケイランドハイツ703

<http://www3.alpha-net.ne.jp/users/femix/>

E-mail femix@mail2.alpha-net.ne.jp